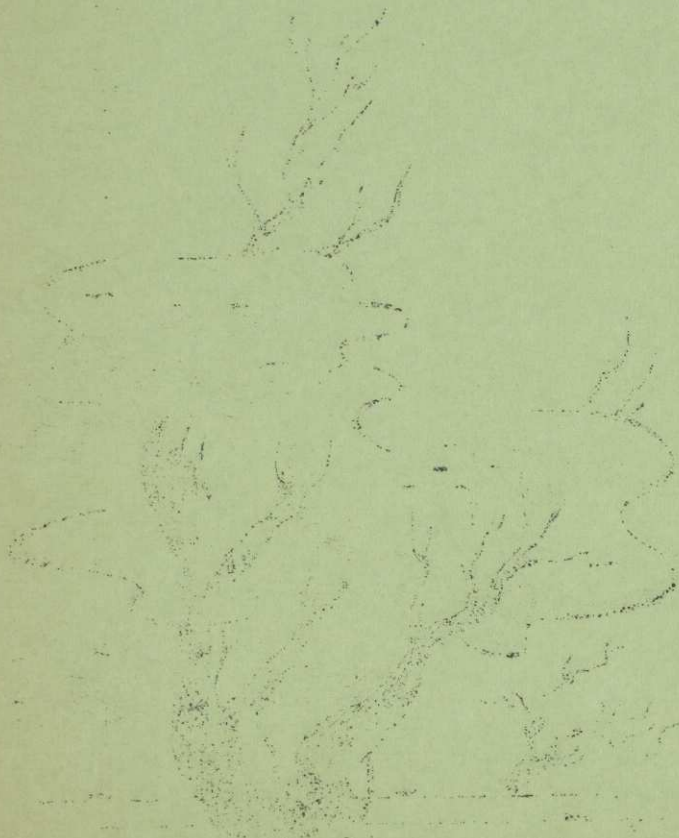


轉住一週年紀念特輯

昭和五年



秋本



Handwritten text, possibly a date or signature, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically and is very faint, appearing to read "1880" or similar.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a note. The text is very faint and difficult to decipher, but appears to be a single line of writing.

一週年記念号發行に就て

千九百四十一年十二月七日眞珠湾の一撃を機として日米百年の親交は破れ兩國鮮を以て相見ゆるに至り吾が在米同胞は敵国外人として一古二古の別なく特殊な位置に置かれた。指導階級と見做さるゝ数千の人は危険分子として検挙收容され續いて残る十数萬の沿岸在住者は立堀を強要され多年築き上げた基礎と財産とを抛つて仮收容所に收容され更に転住所に移された。かゝる我々日系人境遇の是非は吾人の論議する所でないが吾等が過去二ヶ年の間全く自由と希望とない暗い生活に續け来つた事実は確実に残る事實である。

額れば昨年十月廿二日アニアススタクトンから八千五百の同胞が遠く此のアカンソー州ロークワの転住所に送られてから早くも一年は夢と過ぎた。其間吾等には隔離問題と次々に押し寄せる難関に今尚ほ心身共に愁めらるゝ何物も持たない夢なら眞に悪夢の連續に等しき生活であるが幸に吾等は民族の誇を捨てず自重よく当センゾーの明朗化に努力し今日十個センゾー中隨一の平和センゾーとして作り上げて来た。此の血のにじむが如き吾等在住者の悲歎苦悶の尊い記録をのこし記念せんとするのが本紙編纂の目的である。此の種のものは多く畢収る記録的のことに傾き乾燥無味に陥り易い。本編は此の吳相當の注意を拂ひ趣味的に作りあげたいと思つてゐるが紙数に限りがあつて充分此の目的を果し得るか否やは係し難い。然し最善の努力を期してゐる。

一九四三年十二月

朗和時報編輯局

目次

發刊の辞	1
市民の一人一人に祝福あれ	
レイDジョンストン	3
三十年の交誼	
ジョセフBハンター	4
誇りの一在トスチスミスJR	5
挨拶ーナサニエルRクリスワード	6
行政部各部門	
所長ジョンストン氏⑧ 社会事	
業部⑨ 警察署⑩ 社会教育課	
部⑪ 衛生課部⑫ 教育部⑬ 市	
政多事會⑭ 社会活動部⑮ 共	
同企業組合⑯ 宗教団体⑰ 再	
駐在部⑱ 市債部⑲ 情報部⑳	
赤十字支部㉑ 行政管理部㉒	
ブラツマネンヤー㉓ 事業運用	
部㉔ 農園部㉕	
回顧一年ー前田千乃太	33
回顧雅登ー玉城聖登	34
無題録ー波光主	36
猿の礼儀ーK丁生	37
成人教育の新方針	38
朗和園談	38

P.T.A.の展望	39
吾等の図書館	40
美術工芸	41
趣味の団体	42
秋等のキャンピング M.T.	45
運動界	46
演藝界	48
Vガーデン T.S.K	52
和歌ー山本開音	53
俳句ーデルタ吟社	54
金ー朗和播吟社	57
川柳ー朗和川柳吟社	58
朗和一年のキマレンジャー	60
所内寄函	65
編輯後記	66

表紙ー秋小ジョージ

駐在二周記念号

朗和の一年

一九四三年十二月発行

発行所 朗和時報社

アカンソー州マヤローワ駐在



所民の一人一人に祝福あれ

訓和転住所々長レイ・D・シヨンストン

私は日本語新タが記念雑誌を發行する事を知り
心から喜ぶものである私は之に依りセンターの
年寄つた方々に慰安と利益を齎らして呉れる事
を心から希ふ。

私は度々話した如く当ロー
センターは米国内で住民の態
度及活動から見ても最良のセ
ンターと信ずる。僅少の例
外を除いて住民WRA役人
及訪問者は常に友好的空
気が漂つてゐる。そしてセ
ンターの問題、事件處理に於ける協力精
神は常に血派であつた。之は決してア
フシデントでなくしてセ
ンター住民の偉大な指
導の結果であると言する。



せる事を信じや疑はぬ。
過去に於て年長者の影響に依りて多数の人々
が出所した。時の経つに従つて多数の住民が
出所し多数の指導者も死んで若きと

しを失ふ事を予期せねばならぬ
しかし過去の好記録、経験、協力を
通じて当センターは現在の好記
録を持續するのみならずよりよ
きセンターになる事を信ずると
のである。

私は將來に於て当センターの住民
の一人一人にその人々が受くべきた
福の来る事を心から祈るのである。

私は若い人々が大山立派な仕事や指導をした一
方長年の経験を積んだ年長者の円熟せる判断及
び才能が杖となり柱となつて此の不規則の状態
下に試練の十五ヶ月間のセンターの發展に貢献



三十年の交誼

副所長
社会事業部長

ジヨセフ・バンター

三十二年前私は日本人李生と交遊になつた。此の日から今日迄私は日本人と交はるか文通しなない日は一日もなかつた。之等の親交及吾界の他地方に於ける友交が私の生涯の方針―吾界平和の建設―を決する大なる動機となつた。

一九四一年夏私が日本に行つた理由の一つは日米兩國紛争防止に一臂の努力をする事であつた。私は日本人生活に沢山の奥に於て尊敬を拂つてゐる。しかしその美点は立退きの時に最もよく發揮せられた。私は諸君が米國に忠誠なる証據として立退きを承認させられた時諸君と行

を共にした。そして私は諸君が機関銃バブワイヤに囲まれそして殘酷な宣傳の目標に曝されてゐながらその精神の試験に自若としてゐるのを見た。かくの如きに耐へるには非常な勇氣と自信、及愛心を必要とした。そして之に依つてのみ正義の最後の勝利は得られるのだ。斯の如き困難の真最中に於ける諸君の態度及精神は吾々諸君を知る者にとつては驚愕であり又隨分であつた。

日米人のよい記録に付て語られた忍苦與素法、律遵守、教育藝術慈善、軍職等の實に偉大な記録である。此の教訓は諸君に大なる価を以て教へられた。そしてあらゆる人間の勞苦を必要とし、そして諸君より正義を實施せんとする國家に大なる損失を与へた。償はれる日は来る。若し立退者諸君が諸君の父母を米國に求めしめたと同じ勇氣を以て進まれたならば一般の非難は最期には諸君でなく諸君を斯の如き立場に追ひ込んだ自己主義な非デモクラチツクなグループの上に下るだらう。此處からの道は前進である。過去は忘れよう。米國各地の人々は諸君の事を誇りて居る。諸君の勞力及び生活が良好なら彼等は諸君を歓迎して呉れる。出所者李生及日米兵は正しい米國人の称讃と感謝を受けつゝある。諸君の李生に教訓は實際の手本により著く知られてゐるのだ。

之は米國をして東洋の諸國との親交の爲に準備せしめて子孫の爲に之を容易ならしめる。人種偏見の呪は減少するであらう。



誇らぬ一告

情報部長

オースチン・スミス・J・R

一告の沿岸諸州附近に
対する貢賦は担当知ら
れてゐるしかし一告の
当センターへの貢賦に
関しては余り知られて
ゐない様に見える。恐ら
く之は黙つてよくその
業務を果しそれを誇つ
たり又は無理に認めま
せやうとしたりしない
人にとつては自然的現
象かと知れない。しか
かくの如き現象は漸次
改善せられ一告の努力
の価値をだんく多敷
のん々が認めつゝある
と私は信ずる。彼等の仕
事のみならず円熟せる
判断及忠告の眞価につ
いて非常に感謝されて
ゐる。

私は此の如き私の思つ
てゐる事を発表する機
会を手へられた事を心
から喜ぶものである。や
して之は私共でなく私
の友達同僚と同じ考へ
で賛同してゐる事を断
言し得る
一八四三年十二月八日



我等がボース

オースチン・スミス・J・R

情報部長と云ふと直ちに
眼光の鋭い刺刀型の
人物を聯想する。然し吾
等の監督オースチン・ス
ミス氏は此の想像に当
填らない温厚そのもの
、謙な紳士である。
彼はよく人を信頼し得
るが故に又他に信頼さ
れ得る人格の人である
眞面目で親切で然して
衝気と云ふものが微塵
もない。
転住所の如きがでく
した所の仕事は往に合
はない。つと静かな仕
事が好きだと云つてゐ
る程彼は静かである。法
律家に似合はぬ内気
な人である。
然し彼の細心緻密なる
事務的才幹は同部門の
如き複雑なる事務を手

際よく取捌き同僚間の
評判は勿論華府本部で
の信任と厚い。
氏は一九〇五年アカン
ソ州ウエストポイント
に生れシアシー高校
カンウエーのヘンドリ
ツスカレデ・デネシ州ナ
ツシビル・ヴァンデビ
ルト大学法科に在りし
LBの学位を受けた。
法律事務所開業一年、
校教師たる事四年後リ
ルラツク市に於て政府
情報局に勤務五ヶ年、
年一月当転住所へ赴任
した。最初社会救済部
に入り四月現在のレボ
イツ部主任に転じた。
家庭には夫人との間に
未だ子宝がない

—(東涯)—

挨拶

ナサニエル・R・グリスウオールド

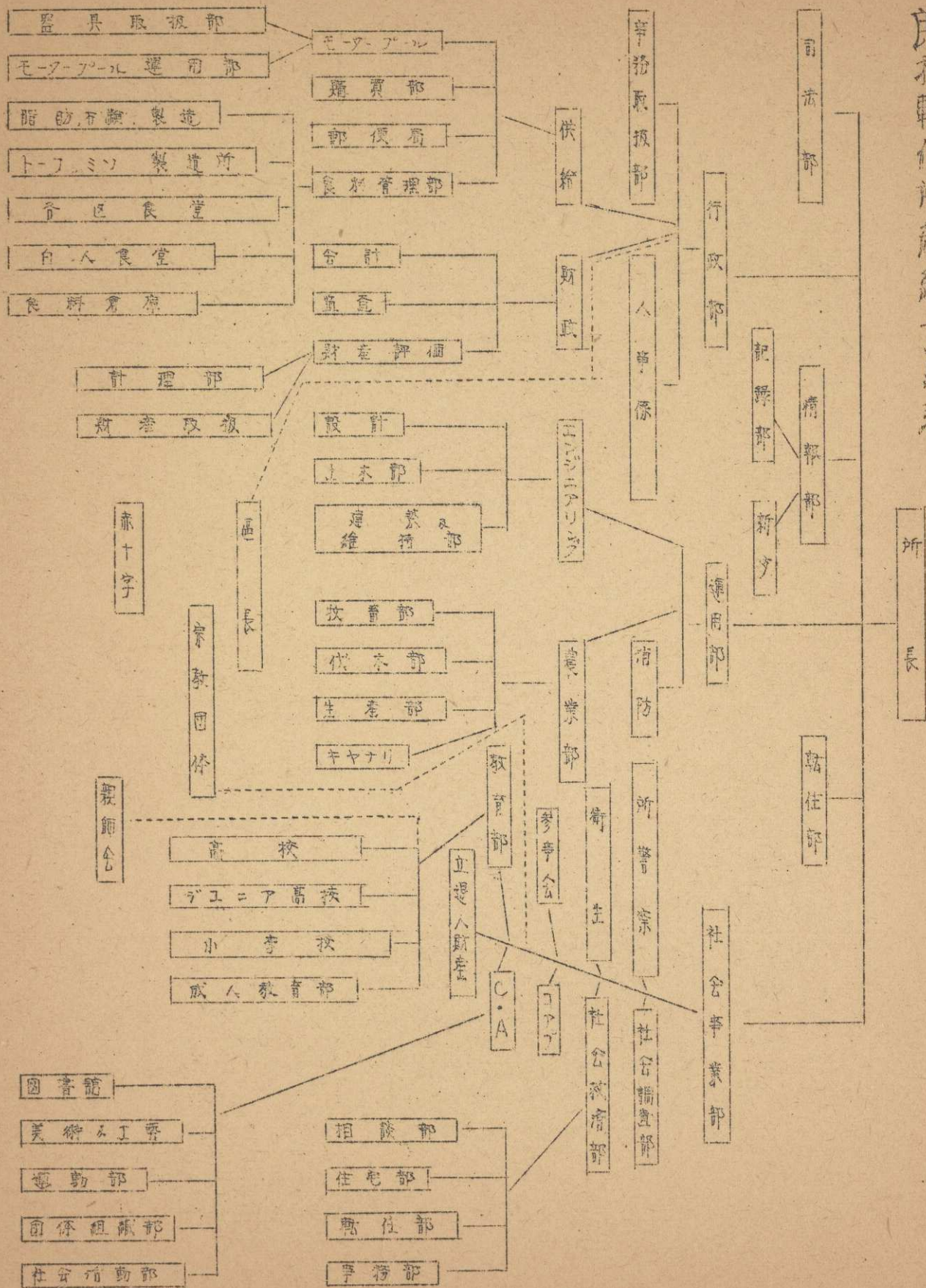
私は茲に欧米人間に発達し来れる言語で此の一小文を記述する。而して編輯者は此の文章を觀、東洋人間に発達し来れる言語で書き表はす。讀者諸君は此の一文を讀みて、私の謂はんとする處を理解するのである。

之と同様に今次大戦后に來る可き新らしき古界に於ては其偶々に到る道各民族相互の思想を解し一民族の音楽、劇、宗教、歴史、彫刻、理科等等的文化を他の諸民族と同様に分かち與るのである。吾々は吾人同士として始め相互隣人同志の生活をするのである。而して相互ひに談笑し合ひ善きと思しきことを合ふのである。

斯くの如く之が明日の古界として實現するものとするならば吾々の過去一年間の訓和軌住所内の生活に於て得たる諸経験は意義あるものであつた。当所内生活を有効に過せし者、隣人として好ましき

らざる人々の中に住む下ら尚其信念を保持し来りし者、不忠実なる裏切者呼ばはりを一身に受け下らと静和なる真理に生きたる者、又此處に守衛秩序ある一社會を建設すべく物質缺乏の中に奮闘努力し来れるもの——之等の人々こそは來る可き新らしき古界に既に住むつゝある者である。全古界を通じて斯る信念を持ち之に努力する者こそ和解ある隣邦的古界を築らす所以である。

此のクリスマスに際し私は諸君が此の一年勇敢に生きられ地には平和人に思ふある古界に具體的貢獻をされたるに對し衷心より祝意を表し度い。之こそは天使が絶えず唱ひ予言者が証言せし古界なのである。



吾等の所長

レイジヨンストン氏

氣候だつて別に他のセ
ンターに比して良いと
云ふでもない。設備は
何處も同様である。収
容されてゐる人間も他
と契つた日本人ではな
いのである。

然るに何故に吾が朗和
センターが十個駐在所
中朗明センターとして
随一に敬へられるか吾
々はそれをジヨンスト
ン所長の人格の反映せ
るとさふ。

彼の著しき行政的手腕
の中にはその高い人格
と所民に対する理解と
親切が含まれてゐる。
彼は所長たる権威者で
なくして常に所民の相
談相手である。吾等は未
だ嘗て彼の高潔的態度

を見た事がない。
府邸の如く虎鷹の如
き頭堂々たる押出しは
ないが太い眉の下人を
突きつける瞳の持主で
ある。

之の所民から親まろゝ
吾等の所長ジヨンスト
ン氏とはどんな経歴を
持つてゐる人か紹介し
やう。

氏は当アカンソー州出
身今年四十五才の働き
盛り、前の第一古界大戦
の勇士である。
一九二一年アカンソー
大寺でバチエラ・オブ
サイエンスを一九二六
年アイオワ州立大寺で
マスターオブサイエ
ンスの称号を授けられた
大寺卒業後約三ヶ年を

建築事業に更に六ヶ年
を農業増産方面に従事
し又一九三五年より三
ヶ年農業保護政策の下
に働いた。

其後ア州ダイエスで農
産保護プロジエクトの
管理人と成り續いて一
九四二年六月迄駐在所
長に任命された。

家庭には二男一女があ
り趣味は狩獵と興釣で
ある。

静かなやして熱口の人
で配下の信頼を一身に
集めてゐる。

前同僚の一人が「ジョン
ストン氏は容静且つ隱
健な管理員で容易に強
力団体に依つて左右さ
れる様な事のない人だ
と云つてゐるに見ても
その為人りが窺はれる。

○優雅繁多なる
所長の業務○

ジヨンストン氏は一九
四二年八月十八日当所
に赴任以来今日迄吾等
の良き所長として親ま
れてゐるかさて所長の
業務はどんなものかと
云ふとそれはとても忙
しい仕事である。

別項組織表にある如き
農工建築教育保健体育
娯樂財政人事公共組合
運輸供給労働住宅其他
行政に關するあらゆる
部門の統轄に当り大小
の問題を取捌いて行か
なければならぬし華
行本部との折衝も尙断
なく行はれやれば文字
通り寸暇もないのであ
る。

更に其の多忙の中から
所民の集會は勿論宴會
演説會に引張り出され
るソフトボールにと
出場して所民と共に樂
しみを分つてゐる。

所長の補佐としてT F
レンズ氏 F R マンがム
氏及 J B ハンター博士
が之を援けてゐる。秘書

としてミラー嬢同補に
根本キミ嬢の出所の後
現在谷野定子嬢が勤務

社會事業部

副所長 J B ハンター博士

副所長 J B ハンター氏
は一九四二年八月リッ
トルラック市の W R A
地方局に任命され後社
會事業部主任として調
和に移つた。一九四二年
九月十七日スタクトン
集客所から先發隊の到
着した時既に調和に居
て彼等を歓迎した。
約四ヶ月前のセント
行政組織再編制に依つ
てコミュニニティービ
部はコミュニニティーマ
ネージメント(社會事業部)
となりた。かく七月ハン
ター博士はセントリー三

大部門の主任からなる
三名の副所長の一人と
なつた。
ハンター氏の主なる仕
事は衛生教育、所内警察
社會救済、企業組合、社會
調査、立退者財産及自治
政府等各部門の監督に
ある。之等諸部門の外種
々の個人的問題も援助
する。即ち結婚宗教サ
ビス、お葬式及収容者家
族の苦話等々の援助は
転住民の常に感謝せる
ものである。同氏は又 W
R A 出所プログラムに
沿ひ附近の都市町村に

於て演説行脚を行つて
ゐる。
同氏の第一の関心は転
生所民が外部に出てノ
ーマルな生活に復する
のを見る事である。右
はれる。白系市民は外部
に於ては好い仕事良い
友達を得るに困難を感
じないだらう。現在出所
する事が二否に最も必
要な事である。何故なら
経済的に社會的に基礎
を築くに今はよい機会
である。同博士は語つ
た。田淵正子、白石よし子
の二秘書及木村えい子
事務係が同氏の仕事を
補佐してゐる。

社會調査部

社會調査部は八月二日
調査官チャールスウイ
スダム氏到着と同時に

設置された。大橋テツド
氏が出所する。道ウイズ
ダム氏の補佐に當つた
現在白神宗、小島キヤサ
リン、大藤幸江の三女性
が同部に働いてゐる。
同部の仕事はセント
リーの与論及態度等を調
査し之を評価してその
報告を作る。此の部門は
日本人が物争を如何に
考へてゐるかを知りや
の意見、不平等を W R A
に知らせてその援助を
するにある。
即ち同部門は日本人の
事情を当所及華府 W R
A 当局者に報告し常に
之に對する意見を調査
する。最近付前集客所外
國語の習識宗教人種混
合程度教育立退前の職
業現在の職業立退前の
環境軍隊に居る親族出
所せる家族数の統計的
調査である。

警察署

過去一年間夜となく晝となく調和駐在所の安寧の爲に腕つづしの強い一団の人々が吾々を見護つて呉れた結果当駐在所の犯罪数は実に低かつた。

当所内警察署は一九四二年十月終頃リンゼーハチエツト氏を署長にバートクレイトン氏を副署長に設立された今年六月ハツチエツト署長の軍籍に入るに及びクレイトン副署長その後任となり氏の補助としてR.G.マトロツク及びM.C.ボウルス氏が就任した。

昨年六月創設以来の日本人のヘッドたりし川崎アルバート氏の出所

の爲の再編成が行はれキヤプテンに川崎カールリユーデネントに永山エデーサージエントに大森エデーデスクサージエントに古岡ビル調査官に田畑ジャック検査官に岩鶴丁及抄書西岡ローザの諸氏が任命された。

調和警察署員の平均年齢は35-40才重量は約百七十五斤身長五尺八寸で日英両語に堪能である。又署員愛持区の人望ある人々で区長の推薦を必要とする高潔な人格の持主である。

所内警察の職務は所内十二警察区域を午前八時から午後十二時との二回に亘り二人の巡査に依り巡視する外月給支拂、病院倉庫の護衛及夜間センソー全部の特別巡視を行ふ。又当セ

ンター出入の人々の調査の責任と警察にある署員はカーキのユニフォーム、ヘルメット、バツグデ袖に星のついた印、懐中電燈及び昆棒で身を固めて居る。

署員定数は五十四名であるが現在多少の缺員がある。

社會救済課

ドクターハンター氏監督の下に十月十五日開設され浜田正及加藤貞雄の兩名就職す。

十二月に入り事務員数名加入され被服料配給準備進行同時に人争相談部にも数名入りて一月中旬オスチンスミス氏の来所と共に事務所を四十二区PSホール

に置きアイラホランド氏半日駐在所間の移転事務を取扱ひ斯して人争相談被服料及び移転に關する事務開始する。

四月上旬ウィルマウングセルドーフ嬢課長として来任し現在在記の四部門を置き所民の便宜を計る。

課長 ウィルマウングセルドーフ
秘書 むレドマツアルナテ

口人争部
駐在所間の移転補助金の申込め抑留者家族の相談及び其他人争相談を取扱ふ。

監督 ウィラドカール

応接 片岡 勸
記録 加藤 貞雄
相談 角田 マチ
全 安田 竜壽
全 赤野 仁
全 中島 早苗
秘書 伊藤 壽子
口住宅部

所内住宅変更記録及び
転宅相談等を取扱ふ
監督 ル・アリス・スティーヌ
事務 秋山英之助、菱山

正元 香田輝美

○転住部

再転住に際し旅費及補
助金の相談及び申込め
外出者と所内に滞在家
族に対する相談等を取
扱ふ。

監督 メリアン・サナー

相談 藤本始、堤常人

○事務部

被服料及び補助金の仕
拂準備記録の整理及び
其の他の事務一清を取
扱ふ。

監督 山本 晴騏

事務員 五味マリ、

一本木子、諸富園枝

松下花江、中島とさ

杉本芳子、西本美智

恵、大藤藤枝、大山

千代子、大塚直江

浜田長雄

衛生課(病院)

一九四二年九月十七日
スタクトン集容所から
当所へバランテアの一
行が来た時佐々木ジヨ
ー(J.M.D.)、忍足謙二(D.D.)
Sの両医師及び看護婦
相原千枝の三人が同行
した。当時のセンター
は建築最後の段階にあ
り唯一の完成区たる二
十七区内にA弥吉正樹
氏の援助下に前記バラ
ンテア諸氏の臨時クリ
ニックを造設した。
十一月クリニックは病
院内に移り病室教室が
開かれた。
然し暫らくの間外科は
医療機械の備はつたグ
ーモット及ジユマス市
に送られた。
本年一月末病院の暖房

装置電話事務用品等が
揃へられた。

調和病院主任医師はA

Tトーレン、LMニハ

I.W.Tカ斯塔フエン、A

Gデローチ及WSラム

ゼーの諸氏が担任した

日系医師には金川佐々

木、五反田諸氏が勤務し

たが出所して現在是在

の配置で所民八千の命

を預つてゐる。

○内外科科

WSラムゼー(主任医)

内田貞助

ロナルド・ローブ

トマス・B・フラクナフト

フランクス・アドリツツ

○O.S.T.E.C 整形外科

永田ワレス

○産科

忍足謙次(主任)

若松ハロルド

恩塚勝次郎

中打デエームス

森本ローイ

○眼鏡科

武井勝人

○薬剤部

松本ポール(主任)

安部リチャード

小山フレッド

武井ベツシー

此の外ジエロムの生田

駿ニダクタトが毎週月

火水出張援助してゐる

○ダイテシアン バジ

ニア・クラーナー

○マラリヤ予防係 ダ

ン・Bラング・フォード

○医療相談役

バジニア・ベイレス

○看護婦十数名同見習

四丁余の外各部の書記

受付其他多数の事務員

が勤務、食堂洗濯部ボ

イラー・室がー・デナ・ア

ン・ブラド・ライバー・ジャ

ニター等従業員多数に

よるが省省す。

教育課

訓和転住所の教育方針は八月十八日教育部長J.A.トライス氏の着任と同時に確立した。同氏はW.R.A.規則に従つて十一月二日には三十二名の白人教師により事業を開始し日本人教師も多数参加した。十一月九日開校当時の学校は住宅用の家屋を用ひ材料も道具も高校教科書もなく教師も不充分であつた。小學校生徒數ハ七八名、高校生徒一三八名であつた。生徒は手造りの椅子に坐り、テーブルでデスクのない所で或者はベンチを机に坐つて勉強した。漸次に器具も到着し講堂、家庭經濟、高校仕事場、小學校

集合所の建造も着々として進行中である。ロンドン小學校は外部と同様の程度を保有し何時でも外部の小學校に入學出来る。大の事業を修めてゐる。一番の難関は英語が一番に劣つてゐる事である。爲めにスピーチ讀書作文に特に力を注いでゐる。職業教育として家庭經濟簿記アイピンズ製図機械學農業商業簿記等教へられてゐる。訓和センター圖書館は二百冊から始めて現在六千五百冊、五新書、二十種誌を有するに至つた。訓和の小學校は当州で公認され、バククラスに編入された。高校卒業生數は二〇六名、第一回五三名、第二回一五三名である。□一般管理

校長 ジョン・A・トライス
成人部 N.R.グリスワルド
圖書係 アリス・アルジャー
學課係 ヘレン・エイ・シャフ
□日本人教師監督
ミルドレッド・トンプソン
□ハイス・スクール
校長 W.M.ビーズレー
職業係 オール・アルブライト
教頭 T.T.ブレッズノー
小學校
校長 M.H.ズイグラ
成人教育部

は今年五月には千七百五十四に達し、手藝科に於ける三百七十八は七月六百二十名に及んだ。此の外老年者の爲めの一般二ユース及国内情勢等一般習識の講義は訓和開校として毎週四日最初五回行はれ、一回平均約五百を集めてゐる。

成人教育部はナット・R・グリス・オールド博士を監督に、新宮ロイド氏之を補佐し、現在左の人々が指導者として活動してゐる。

○英語科—坂上京雄主任、平本ミサオ、木村峯子、奥照子、ウイリアム・ス・女史、シルヴァ博士

○日本語科—中村光男主任、井上道雅、助手伊藤正夫、和田通

○訓和相談—南田千馬、太田岡四郎を面へてゐる。

市政参事會

駐在所の行政及び司法
権を所民をして行使し
のやうなふ所民の自
治制をWRAが採用し
之が爲めに各區から所
民代表の参事員一名を
選挙し全區参事員の会
議に於て自治市政の諸
問題が討議され其の決
議に基いて執行委員並
に夫々臨時に挙げられ
た委員に依つて其政策
が実行されるのである
が自治制と称するも
駐在所はWRAの管理
する處にして所民の自
治制に許さるゝものは
自ら或る程度の範圍に
局限さるゝは当然の理
にして所民も亦之を認
識する處である。

一九四二年十月駐在者
に顧問会員の氏名如左
が稍々落ち付くと共に
所當局に依つて此の計
画が進められ先づ十一
月上旬各區に於て臨時
参事員と称するは未だ
市政憲法制定以前なる
に依るのである
當時参事員の資格は所
民中廿一才以上の米田
市民者に限られ選挙推
挙は市民非市民の別な
く十八才以上の所民と
規定されてあつた
更に此の仮参事員会に
於て第一古所民の有識
者を各區に於て一名宛
を推薦して市政顧問会
なるものを設置し市政
に關する助言を受ける
事とした
當時の臨時参事員並
に顧問会員の氏名如左

□初代臨時参事員																								
第1区	第2区	第3区	第4区	第5区	第6区	第7区	第8区	第9区	第10区	第11区	第12区	第13区	第14区	第15区	第16区	第17区	第19区	第20区	第23区	第24区	第25区	第26区	第27区	
永井ゲリー	村本 ケー	中村 エース	清田 幸一	武田 ビン	真田 トウド	五十嵐 明	西川 フラク	五反田 トク	佐々木 トク	安藤 ゴロン	竹内 ヘイイ	古谷 喜久江	香藤 カズ	早川 トム	丹 正方	梅田 竹藏	迫田 薫	船村 サム	内藤 今雄	前田 オ一	川崎 昇	三力 谷愛正	伊藤 秀雄	佐々木 トク

															第																第28区
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	41	40	39	38	34	33	32	29	28								
池添吉之助	植松定藏	畑中孫三郎	青木喬一	坂井正治	植原正治	尾形忠三郎	中村孫助	野沢有	安田秋衛	片岡勤	玉城重雄	木村重方	森重	山田光造	森松トク	阿部リヤド	平泉デビス	五畑富雄	冲野久	松尾久	高杉武	吉原ジヤジ	民部ウリヤム								

第16区

41	40	39	38	34	33	32	29	28	27	26	25	24	23	20	19	17	
海野	小林	末安	奥武	鬼塚	河村	三宅	三宅	上田	野宮	藤本	遠藤	若見	石丸	武市	森	高井	池田
太郎	重賢	儀一	朝道	ト多	一郎	譽作	譽作	久吉	同二	津客	照治	武主	正吉	青男	諦	太郎	祐吉

一般投票に回ひ一九四三年五月廿日所長の石憲法有効宣言が發せられ茲に調和市政参事会の基礎が確立するに至つた。

□参事員資格拡張
斯くて同六月一日第二次参事員の選挙が行はれたが之れより先き本年五月六日当転住所長の發表によりWRA行の政訓令三四号改訂に依つて非市民たる第一番と選挙に依る市政府の政治に参与権を認めらるゝ事になり参事員の被選挙権に一大変革を生じた即ち第一、二番の別なく参事員たる資格を認められたのであるが之と同時に第一番顧問会は消滅するに至つた。

□第二次参事員
1 面 利光

20	19	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
安田	若松	伊原	本村	嶋崎	田中	玉城	寺川	武井	安田	西川	島川	佐々木	香川	国次	植村	畑中	植松
太郎	トク	悌三	義方	サム	正方	重盛	信衛	猛熊	秋衛	フランク	シヤン	フレッド	熊吉	史郎	傳	三郎	貞造

41	40	39	38	34	33	32	29	28	27	26	25	24	23				
同年	小林	志賀	服部	鬼塚	戸田	鈴本	鈴本	野田	中村	高杉	三輪	小川	富永	永井	坂田	石丸	大谷
十一月	重賢	重藏	耕三	勝次郎	助太郎	忍之助	忍之助	清次	光雄	隆	義雄	義雄	シヨージ	勝人	一雄	正吉	豊雄

□第三次参事員
争員である。

第1區

29 28 27 26 25 24 23 20 19 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

面 利光
安田 弥太郎
伊原 憐三
田中 正方
玉城 重盛
武井 猛雄
遠藤 愛治
新平 忠吉
岩名 信一
高岡 年松
國次 史朗
植村 博
畑中 弥三郎
植松 貞造
惠谷 正記
清田 政隆
藤田 富之助
筒井 太郎
峰 續
大谷 豊雄
渡辺 作次郎
坂田 一雄
堀 秀雄
大久保 実
小川 好雄
三輪 清

32 守屋 千夫人
33 江山 金藏
34 鬼塚 勝次郎
35 藤野 忠二
36 若井 繁登
37 志賀 重藏
38 40 服部 耕三
39 尚現 参事会に於ける各
41 部門委員は如左各部委
員は憲法に依り参事員
又は参事員以外の第一
二占所民の中から参事会
議長に依つて推薦され
参事会承認したもの
である。
○労働協調部 議長青
木喬一 委員池野保
雄 池添吉之助 山口宝
一 小川好雄 志賀重藏
小泉
○人事相談部 議長堀
村博 委員片岡勲 加藤
貞雄 藤村壽一 斎藤仁
ル 大下西吉 井シヨージ
○橋風部 議長遠藤照
治 筒井太郎 大内田千

代太 安田 弥太郎 原田
竹之助 三輪清
○隔離部 議長武井猛
熊 武田 谷博之 熊谷勉
神谷 喜栄 藤原佐輔 池
田 祐吉 大下 重雄 第
次郎 上田 勇 滝口 喜雄
瓦谷 未一
○食糧燃料部 食料部 議
長畑中 弥三郎 燃料部
議長服部 耕三 委員西
川 フランク 伊藤新太
郎 大谷 豊雄 金又三
西浦 清龍 土橋 直井 上
伊二 辻村 浦次郎 古岡
悟
○司法部 委員長大橋
貫造 池蓮一 雄シミ
中村 石丸 正吉 川口 康
野沢 有風 早路一 須藤
和四郎 清水 虎次郎
○教育部 委員長新宮
同三 坂倉 憲治 堀場 保
通 井原 悌三 古谷 夫人
鈴木 重忠 平原 夫人
峰 續

○再駐在部問題研究部
議長藤野 忠二 村岡三
郎 系正吉 坂家ハリ
中村 孫助 川永 光司 安
田 弥太郎 神谷 嘉永
○衛生部 議長竹田 谷
博之 同副 鬼塚 勝次郎
書記 池田 祐吉 会計 香
川 熊吉 前田 茂一 同監
査 重富 留次郎 立山 金
藏 委員 林伊十郎 伊藤
富吉 本田 津守
○西班牙大使接衝委員
角田 千石 太 村岡
三郎 鬼塚 勝次郎
伊達 収 玉城 重盛
○正副議長及書記会計
現任如左
議長 玉城 重盛
副議長 植松 貞藏
書記兼会計 藤野 忠二
次に執行委員は正副議
長書記兼会計の外区長
会議長現在安達 収を以
て成立する憲法の規定
である。

社会活動部

一九四二年九月十九日
 スタクトンから先発隊
 が本所に乗り込むと同時に
 にポール島田デグネス
 上杉タム植田及ジミー
 赤崎の諸君に依り計画
 されジグラー氏現小寺
 校長を仮監理者に推し
 之にリー及マンゴ西懐
 が加はつて現在のCAの
 前身が創立された。
 同月廿三日サンタアニ
 タから第一グループが
 到着するに及んで本格
 的にリクレーション部
 門設置の事が進められ
 たが尚ほ微々として振
 はなかつた。

氏の活動

其後C.B.プライス氏が
 就任しC.A.監督として

目覚ましい活動を爲し
 遂に従業員百二十名を
 擁する大部門と爲し今
 日のC.A.の基礎を固め
 た。プライス氏は市民
 に対する理解の深い人
 であつた。あらゆる難
 局を打破して八千五百
 の市民の生活の明朗化
 を娯楽振興の活動によ
 つて計つてくれた。
 彼はジャツキ本場民を
 助監督として起用し活
 動を續けて行つた。今日
 C.A.に拡声機の設備あ
 るも其賜の一つである。
 プライス辞任の後にはソ
 ーレンソン嬢が監督代
 理となりプライス氏の
 偉大であつた池東須一
 男氏が邦人部を代表し
 て益々發達させて行つ
 た。ソーレンソン嬢が
 赤十字社海外特派とし
 て当所を去つてからは
 社会事業部長ハンター

立退者財産

博士を相談役として池
 東須氏が同部門を支配
 してゐる
 各部主任左の如し
 ○体育部長 鈴木良章
 ○団体部長 角田スレス
 ○図書館長 長谷川謙
 ○娯楽部長 森 邦雄

当部設立は一九四三年
 二月各センター同時に
 行はれた。十月迄当部の
 仕事は供給係C.V.アブ
 デグラーフ氏が扱つてゐ
 たがI.B.コンナリー氏到
 着と同時に独立した。
 仕事はW.R.A.又は私設
 倉庫にある日本人荷物
 及びリールステートの取
 扱ひを行ひ、賣却運搬イ
 ンスペクシヨナリース
 定告等のサービスを行

ふ。誰でても以上の希望者
 は申込書に記入する必
 要がある。

最近沿岸私設倉庫にあ
 る日本人荷物財産等に
 悪化する者が多い様だ
 当部は之等の私設倉庫
 にある財物を政府倉庫
 に入れる事をすすめて
 ゐる

(2頁よりつづく)

○書記科 マーロー女史

○若瀬夫人、ステイド女

史、コイルマン

○教養科 山内キクノ

安井貞子、廣重君子

○電気教養ミシン科

死足キム

○電気科 金子義治

○オートメカニクス課

ハリ・ナフ、矢田豊

尚ほ庭園大工、指物、コン

クリート、冷蔵庫、フラー

ファイピスト等の養成

部は組織中で近々開始

される予定。

共同企業組合

調和共同企業組合の前
身は所長ジヨンストン
氏がマギーの銀行から
百五十万を融通し、それ
に氏のポケットマネー
百万を足し加へて二百
五十万の資本を以て一
九四二年八月廿四日キ
ヤンテンを開業した。
所長はK清村フランク
西川サム船村伊藤秀雄
グリー永井及タム早川
の二名六名を撰び、キヤ
ンテン経営に当らせると
共に浜田増雄島崎正
男両氏をあげて組合組
織の準備工作に当らせ
た之に一占の顧問とし
て経験ある武藤秀夫上
利与一藤森壽一鐘ヶ江
善助池添吉之助及西尾

善次郎の六氏を抜擢し
て創立委員会を組織し
更に六名のトラスステ
ートを擧げて業務経営に当
らしめた。当時のトラス
ターは清村船村武藤上
利藤森及永井で第一回
千五万マニには清村氏
次の船村氏出所、武藤
氏が引次ぎ支配人を兼
ねた。
一ヶ年を経過した今年
八月の報告によると資
産総額六万一千八百七
十二円二十八仙、純益四
万三千八百〇三円三十
三仙に達し、之に三千五
百九十円の組合員株金
がある。
五月八日、重荷のデスト
リットオブコロムビ

ア、よけ正式に組合の認
可が下り、同時にトラス
ター制度から財産及全
機能は組合の手に移さ
れた。
組合員数は一月申請当
時三千八百六十八名で
あつたが、外部転住及鶴
湖隔商移動の爲め八月
末現在では三千五百九十
に減少したが、十一月の
利益割戻予定に依り、購
買者の入会を勧誘の結
果、現在では四千に近く増
加してゐる。
組合は会員五十名に對
する一人の代表者を選
び、之より更に十五名の
理事を選んて運用の任
に當つてゐるが、第一回
は臨時役員を共催引次
ぎとし、第二回は八月四日
定期総会に於て現理事
は去七月の定期總會に
於て選挙された。
○初会理事

奥山与一郎(議長)大内
田千代田(副議長)鐘ヶ
江善助(会計)戸田助太
郎(早勝一、山田一、奥
武朝道、福永壽男、三宅
与作、山本晴興、大島勲
一、香川熊吉、藤渡慎二、
伊藤秀雄、岡本極次郎
○第二回(八月改選)
奥山与一郎(議長)
戸田助太郎(若見屋、武
生、定款及細則部)
鐘ヶ江善助(財政部)
藤渡慎二(会計監査)
川口康三(住宅思想
教育部)
大島勲一、太田精雄(商
品仕入部)
村岡四郎、香川熊吉(苦
情聴取部)
大内田千代太、福永壽
男(人事部)
瓜早勝一、井口将邦(企
業部)
○現理事(十二月改選)
鐘ヶ江善助(議長)

池添吉之助副議長
渡辺謙三(会計)
理事 大石光平、大内田
千代太、重富留次郎、佐
藤時香、高橋末安、儀一
政岡進、田中国輔、熊谷
喜一、佐賀敬、藏牧野省
己、岩名信一、安田弥太郎

□業務部

組合業務部は第一團理
事会に於て武藤秀雄氏
推薦されて總支配人と
なり去十二月の臨時總
会まで其の衝に當つた
が各部々長をめぐれば
左の如し十月現在

監督 R.C.エレン
總支配人 武藤 秀雄
会計 鐘ヶ江善助
計算部長 安藤 繁雄
バンキング 坂倉 憲二
商品仕入兼倉庫部
赤羽 一雄
情報部 富重 利夫
調度課 五味 保
キヤンテン 伊藤 秀雄

副 立花 猛
呉服部 岡本梅次郎
靴販賣部 五畑 富雄
赤羽 豊
取次部 赤田万壽男
靴修繕部 忍足 棟治

美容院 池田トミ子
理髮部 尾山逸太郎
新夕雅談部 佐々木丁
映画部 三カ谷愛正
写真部 堺 義太郎

宗教團體

朗和佛教會沿革史

朗和佛教會は一九四二
年十二月廿日創立され
て以來現在に至りて滿
一ヶ年に達す。所内の信
徒總数は五千八百八十
にして各宗派に属する
と眞宗々徒の數最も多
數を占む。今少しく本
會創立前後の事情並に
過去一ヶ年に亘る事績
を敘してその沿革を示
すべし

四二年九月十二日加州
スタクトン收容所を出
発したる二百四十余名
の男女信徒の一團は同
月十七日大陸を横断し
無事現在の朗和駐在所
に到着した。この一團
は自由先発隊と号し佛
教徒がアカンソー州に
集團的移住の足跡を印
した最初のものである
爾後南加サンタアニタ
收容所及須市の西所よ

り續々到着しその數六
千九百余名の信徒を算
するに至つた十月十七
日は水谷普覺師同月廿
一日は海野円了師各々
須市收容所より到着す
○日旺李校 西南教使
の到着を待つて信徒代
表者は會合を催し正式
に日旺李校の創設を決
定し取敢へず廿八日
からホールをこれに使用
する事になつた。十一
月一日初めて所内で日
旺李校説教が行はれた
續いて佛教青年會が同
月十五日開始された。
○南北有志會合 地理
的に隔斷された南北加
州の駐在者と等しく佛
光に照らされ氣脈の相
通するものがあつた
二十六日南加側より荒
谷全崎両氏北加側より
伊藤新平本の四氏會
以下二頁へつづく

現在公員の登録教五三
四名である。教会は曰英
語の二部より成り各部
に役員を置く。即ち英
語部には最初の議長并
上智雄の外会計書記等
数名。曰語部役員は各
牧師の外各教会より二
名宛の代表者を挙げて
理事とし其の互選によ
りて議長掃島熊藏。副
議長白石清。会計清水
虎次郎。森諦。国森熊
吉。書記尾形忠三郎を
挙ぐ。両部共役員の内
期は六ヶ月。当教会は
便宜上全セントを三
分し、各教区毎に集會
所と牧師を配置した。
即ち第一教区は東南部
十一区東公館。第二区
内。福島白石坂上。第
二教区は西南部十二区
面公館。第六区内。茶

拘束。第三教区は中北部十區、第四區食堂。太山平泉。本教會事務所は第廿區六丁に設けらる。尚旧婦人伝道師として石橋美代子姉あり又曩に日本宣教師たりしウヰリヤムス女史も種々教務を補佐せらる。當教會に以下の七部門を設け天々各教師之が主任たり。礼拝　福島教育懇　伝道(天山)青年(坂上)　文書(白石)杜会(宇原)　音楽(天山止原)
當教會の定期諸集會は概ね以下の如し
教會堂會館は第廿區五番地
○主日部　礼拝は毎日午前十一時十五分
教會堂にて
○共勵會は同日午後一時半
教會堂にて
○祈禱會生書研究は毎水曜夜七時半東光館
○月次役員會は毎月第一

二月 旺夜
○日語部 礼拝は毎日
旺午 旺二時 教会堂
○各教区仕道会 同日午
后七時半 各區集会所
○祈禱会 旺 毎水旺午 旺
七時半 教会堂
○毎朝祈禱会 午前八
時 教会事務所
○月次役員会 毎月第
一月 旺夜
○ブラザース・フレンド会
毎月第二月 旺夜 例会
当番幹事制 会員
○婦人会 毎月第二第
四土 旺午 旺 例会 会員
百廿五名 現在役員
は以下の諸夫人及び
会長井上 副山内井
原 会計遠藤藤谷
書記清水 外に病者想
向委員土肥夫人外数
名 奉仕部は井原天
人指導下に手工品を
製作 教会及び公私用
○日曜学校 当教会の

最大事業の一である。毎日旺午前八時、所内七ヶ所の教場にて、猛猛科以上大人科に亘る八等級五百數十名の生徒を収容、校長、崇博士指導下に、各分校長、外約五十名の教師、夫々の組を擔當、教場は第一校、東台館、第二校、西台館、第三校、教會堂、第四校、田一區校舍、第五校、廿七食堂、第六校、廿ノ五、第七校、第四、六、区内。

◎文書部は日英語週報發行、編輯白石、發行大山、西牧師、英文は現在、石橋姉妹が主として擔當、其他印刷物多忙。

キヤソリック

メリノールのジヨンフスウイフト神父がジエ

ロム及朗和センターを受持つて居られる。日曜朝八時にジエロムで朝のサービスをすまして、直ぐ朗和に来て十時半から四時でサービスをする。午前一時から子供夜は大人の爲めにサービスを行ふ。水曜朝ジエロムに帰つて日曜サービスのすむ迄、同地で仕事する。立退前、羅府キヤソリック信者数は約三百名、位居たが、大多数はマンザナリへ行き、約四五十名、朗和及ジエロムに来てゐる。白人信者も約十名、泣居る。イスターサービス、八月十五日の聖母祭、十一月一日の聖者祭の三つの大きな祭典が三月以來行はれた。メリノール教會はローフに於て作られた最後の

の宗派であり、三月十三日始めて作られた。

大師講

高野山眞言宗信徒を以て組織されてゐる大師講は、毎月二十日、第二十三區、佛教會に於て、勤修されてゐる。同講の古話係は、松本徳太郎、内海栄次郎、福山仙吉、喜多義治、田中富太郎の諸氏で、幹事、風早勝一氏が講務を司つてゐる。

朗和宗教家聯盟

朗和センターに於ける教役者が一団となつて、所民の幸福をはかる目的の下に、基督教牧師及

佛教開教を以て、一九四三年三月、朗和宗教家聯盟が組織された。日本が一億の國民と二千百有、余年の國運を賭した大國難に際して、佛教各派の統一すら呈難とされてゐるに比し、吾がセンターの宗教家が、在住同胞の爲めに、此のよき試みに成功した、異なる二つの宗教が、相容れない事は、過去数千年の歴史に於て明かである。然るに吾等の尊敬する宗教家は、敢然として之を行つた。その信念と誠意に敬服せざるを得ない。と同時に、現在吾等の境遇が如何に深刻であるかを、物語るものである。その事実が、当センター吾等の社会に生れた事は、確かに一つの偉大なる且記念すべき事実である。

佛教會

18頁より

合し佛教會創立委員会を組織した

○佛教會創立 十二月

十四日創立委員会を催

し所内三十三区より古

話係六十二名を推挙し

古話係中より總代三十

名を挙げて実行機關を創

設した。即ち

北加側吉川伊藤新伊藤

富平本遠藤河村藤井

中川松本藤森立山堤

南加側青木樫川室崎光

枝風早荒谷滝口西尾

惠谷小林峰谷吉武赤

野木村三浦吉田小坂

の諸氏で十二月二十日

四十二区メスで発会式

と入佛式を厳修した。

○部門設定 續いて日

時季校佛青仏道部宣信

部慈惠部社交部会計部

の七部を設け委員をあ

けて責任を分擔した。

○教台ホールは廿八

乙P.S.ホールを使用す

る様になり水谷海野而

南教使交互に説教した。

○信徒転住 一九四三

年九月鶴湖移住の信徒

は六百四十四の多数に

上り海野円了師一家と

移転した。

○虚礼廃止 九月廿五

日の古話係会に於て葬

儀に際し教台内に於て

香奠の受付を廃止する

信徒の報謝は總て教台

々計に納入し会運用の

資に充つ

との決議を爲し虚礼を

廃すると共に教台の財

政を確立した

之は調和佛教會が断行

した旧弊打破と教台経

営上の大革新である。

○祭明会 佛教信徒社

年社の人々を以て祭明

会が組織され去十二月

五日発会式を挙げた。

○墓参会 所の南端に

位し墓地が設けられて

ゐる。古等が入所以來一

年の間に多数の死亡有

か埋葬された。佛教會で

は盆會の墓参會の外鶴

湖転住者出発の際にも

大墓参會を催し懇に奥

郷の土となつた亡靈を

慰めた。当前で土葬及

び火葬された信徒の數

は現在八十余に達して

ゐる。

佛青の活動

佛教青年會は創始以來

社会的に活動奉仕をつ

づけてゐる。雄弁大會

龍球及ピンポン競技又

敬光會に演藝會に於て

は少年男女の善導に活

動しつゝあるが若るハ

月に於ける花祭の盆踊

の如きは実に盛大なる

もので所内八千の住民

を魅めた。

その他デンソン佛教青

年會との交歓河野南教
使の招聘等有益な仕事
をしてゐる

現青年幹部は

会長若井正夫副会長

伊藤エルソ幹事カ石

サトミ会計香川ジヨ

ージ宗教部林野ヘン

リ、中下静夫宣信部

光技ボソフ摘益校記

録部運動部香川ウイ

リアム松廣及中川転

住部及日校監督

記念塔

無量の感慨を胸に
藏しあはれ此地に
永遠の眠についた
先亡者埋骨の共同
墓地は長谷墓地
委員により常に清
められてゐるが市
参事會及区長會に
より記念塔を建設
する事になつた。

再転住部

主任 E. B. モルトン

現在 WRA として再転住の問題は最も重要な問題である。十月中旬 WRA 新規定に基いて当所行政部の再組織と共に新に「リロケーション」プログラム部が設けられ、プロジェクトエンプロイメント部は閉鎖されて E. B. モルトン氏が新部門の主任となつた。そして出所係であつた「ハートエルアボット」氏が之を副主任として補佐する。出所係には元統計課の「リ、アン、モロー」が任ぜられた。モルトン氏は一九四二年八月八日リルラックの WRA へ就職。今日二十三日当所へ転住エン

プロイメント課長たり。十月中旬再転住部が設けらるゝに及んで其主任となつた。同部門は再転住に關する内外の仕事すべて取扱ふが、今所集團的及家族的出所に關する問題は同部門にとつて相當重要な研究事項とされてゐる。出所部には藤野を「ハートエルアボット」氏を補けてよく出所者の便宜をはかりてゐる。地方転住局、中西部及東部に於ける日系人再転住に對し、外部市民と接觸し、事口の合話、其他各種の便宜をはかり、常に相談役とな

る爲めに地方転住局が設けてあり、地方別として

塩湖地方、デンプー地方、シカゴ地方、セントルイス地方、リルラック地方、ユイゴーク地方、クリブランド地方、に区分し、その管内に約

四十五の支局が設置されてゐる。各局のアドレスは英文記念誌「ベン」に載せてある。参照されたく且つ種々出所者に依つて特に希望又は適合せ等ある場合は直接關係する地方局へ照会されたし。

法律事務所

法律顧問 シヤック・カーチス

管理部及日本人の法律的問題は「ジャック・カーチス」氏を首班とする。法律事務所では全部取扱ふ。カーチス氏の下に「フンダハイド」秘書及「アリス・若林・タイピスト」が居る。

一九四二年十月始めの当事務所は公式に開かれ、た。以後平均一ヶ月三五〇—四〇〇件を取扱ふ。企業組合組織の書類と當事務所が扱つた。又此所では日本行申込めと取扱つて居る。直退、行財、産、保険、税金、プロベイト、向題及離婚等の法律的問題の取扱ひもカーチス氏が行ふ。

今迄複雑な問題もあつたが満足な成効の結果がおさめられた。カー

チス氏は何時でも諸君の相談援助に應ずる。事務所はA.D.スにある。

情報部

オースチン・スミス氏

当部は温厚な紳士オースチン・スミス氏が情報部長として敏腕を振つてゐる。仕事は左記四部門に分れてゐる。

口新夕社 日英西新聞
は当部に属しセンダー規則、規約、運用等の記事及立退者に関する外、部の記事を一週二回報道する。

現在の社員は如左
佐伯實(主筆、出所中)
真田一弥(支配人) 金
万英子 秋本震次
荒尾英子 高橋昇
高露和枝 太島花人

奥村賢彦 松枝司 菊
地智恵子 永井清子
寺田香美 高橋ヘレン
坂田鈴子 武井純夫
豊福K
朝和時報(日語部)
小室昌一(編輯長、大橋貞
造)田村禮吾(鈴木重忠、黒
石幸雄、田中静子)
口報告部 報道部長は
赤廻センダーに就いた
一番重要な出来事に関
する行政報告を作る。之
等報告は毎月各セクション各デビジョンから
情報部に集められ調査
する。

之等定期報告の外にセンダー運用に関する報告と成される。

口文書 各セクションデビジョンからの報告及インフオメーションを集める。各センダーの諸事業等に関する写真撮影も当部に属する。一例をあげると隔離の風景園地し其他の写真等は之に属する。

口外部報道 英蘭との接觸、外部報道機関と接觸して有名なニュースを提供す。一九四三年六月末日及七月一日の記者招待の如き大なる効果を得た。

情報部の秘書は秋田ルースマンが當つてゐる。

アウトポスト
アウトポストは最初事務所を2012Fに置き、ヒン竹田、佐伯実のツ大

敷デック本間、メリー山下及長谷川進の諸君を以て一九四二年十月二十四日第一号を発行した。但現在の四十二区に移り第六バラックを専有し一九四二年末にはジミー・土井、ユキ木、ワレッド大島、秋本震次、荒谷次郎、柏原直美、ビツキ金、タム中村、太上敏子、平本スミエ、テリ、大賀ヘンリー、緒方、ジューン、ワグリー、大島が加はり、バフ高橋が支配人となり、て陣用大に振つた。此他過去一年間に於て正不口イ宇野、ブツ子、林、水島、ヒロキ、松下春子、カツ福、谷、エド中沢、宮原、藤、井、裕三、アイリス、小林、國次、寛吾、ビル、藤本、本田トミエ及島田(日語部)がめつた。

朝和時報は十二月十九日發刊した。

朗和赤十字

米國赤十字社は古界六十一ヶ國の加盟國と相提携して人種國境宗教を超越した人道上の見地より奉仕し戦時は勿論平時に於ても國の内外を問わず飢饉水害火災流行病等に依り困窮せる人々を救済してゐる。

朗和駐在所に於ては今春三月所長ジョンストン氏並にジフラー氏等の盡力により支部が設立され爾來所内住民諸氏の熱烈なる指導と援助を受けて今日全センターの爲めに奉仕の實をあげてゐる。支社の部門は左の如し

家庭奉仕部 応急手

当講習部、家庭看護講習部、傷害事故防止部、李童部

○家庭奉仕部には外國通信部、救済部及出征兵士奉仕部がある。

○戦時通信

戦時交戦國相互の通信は万国赤十字社を通じてのみ出来る規定になつて居り当所支社で今日まで扱つてゐる数は

○日本行 普通々信二千余 電報七十六

○日本より 普通々信四百二十余 電報三十二通 最近日本より返信沢山到着

○出征軍人へ奉仕部へ當中の兵士の人事に關する事件一切を取扱

ひ負傷兵病兵等に対する手当を求手續、其の家族の救済及勤務中の兵士の家族の病氣及死亡等の際の呼寄手續を其他非戰國員救済等

○二交換船グリプスホルム号に乘船不能で來所更に鶴湖へ送られた人々五十四名の衣類及見廻品の支給には四百四十一帯余を支拂救済した。

○応急手当部

現在五ヶ所に講習普通科高等科に分け卒業生既に三百余名を出してゐる。

○傷害防止部

応急手当箱五十ヶを購入各區及學校事務所へ配付した

朗和赤十字社支社は三月九日創立四月一日迄に會員募集資金三千三百〇六帶八十八仙を集

のジユニアRC又百〇七帶四十一仙を集めた

現役員は

支部長 植松 貞藏

副支部長 フレッド 小山

會計 村岡 三郎

全監査 未安 儀一

書記 山口 夫人

応急手当部 永井 勝人

島川 ジョン

傷害防止部 袴坂 勇

家庭看護部 五畑 フミ

家庭奉仕部 植松 貞藏

プリンチー 佐伯 実

鈴本 重忠

秘書 草間百合子

尚理事として藤森壽一

未安 儀一 小山 フレッド

村岡 三郎 及 植松 貞藏 山口夫人が指導されてゐる。

応急手当教師

永井 勝人 小山 フレッド

袴坂 勇 島川 ジョン 枝尾 好江 東繁樹 大瀬戸 テツド。

行政管理部

副所長 FR マンガム

マンガム氏は一般市民に白人チームの長身の石遊撃手としての方が行政部長としてよりよく知られ親しまれてゐる。行政管理部長兼顧問たるマンガム氏は此處に就任する前は政府の諸部門に活躍してゐた。一九三四―四二年迄同氏は農務省行政管理役人として働き四つの州文官を任じた。彼の行政管理部長としての仕事は行政部門全般の計画、指図及監督を行ひ又その部門の運用に必要なる組織上の又は政策的変更を所長又は華行に推薦する。同氏は又供

給部事務課、財政課人争課の如き重要部門の監督となす。即ち此の中には郵便局、メスホル、交通等が含まれてゐる。朗和に於ける一ヶ年を回想してマンガム氏は私は当地に於ける仕事をとてエンジヨイした。多数の人が出所した。か日本入の中に沢山に有能な事務員と接觸の機会を得たと語つた。再転任には中西部及東部が一般感情とよく最適だと思ふと語つたり。一ダキヤンプ夫人が秘書である。



財政部

当部は第一番にその仕事を開始した部門で計理士ラルフ・E・ステス氏に依り寄宿舍の前で卒業が開始された。現在ADはに移転した。センタ一の如き大規模の費用計算、日白木の月給支拂等決して容易な業ではない。財政の外にエステス氏は二十二の財産倉庫の監督である。此の方面でニール・スナイダー、ハオ・デ・ビス、及E.P.ガヴァン、三氏がエステス氏を補佐する。他の白人役人はハリ、バー、ジェン、合計士、フランク・キンズ、及シエーム・マツキンズ、の諸氏でエステス氏の下に働いてゐる。

人事管理部

財政及監査 財政会計士主任A.J.ワオ・ル・ス・氏が財政部の監査を行ひ又O.レ・ン 会計士が財政会計を主宰してゐる。監査部はセンタ一資金の物的統制を行ふ所の会計部と連絡してセンタ一会計等の監査を行ふ。センタ一の費用は此の部門を通じてのみ支出される。かく吾々の月給はコーストアカント及財政統制部でそのリストが作られ、それで財政部に廻されて支拂はれる。当部に働いてゐる人々は、L.ピタリス、S.レシ、ル、A.ベトラ、ム、P.モ、ンである。

当部の元人争係は行政

役人の人選、訓練及各部門主任と人員の必要に關し相談及援助をする。任命されたる役人は全部シビルサービスのリストから採用される。現在の人員数は一六六名。人事役人Eヘイス夫人は常にシビルサービスコミッションと接觸を保ち、法則規則に精通せねばならぬ。シビルサービスの法則は嚴格に守られてゐる。センター学校は先生は皆文官である。彼女と二人の補佐、アリスは行政部メンバのペイロールリスト、ペイロール減額係、停止記録及ボンドの用意をする。個人に關する記録も規則的に作られてゐる。シビルサービスコミッション及びリトルラング及華府WRAに送られる。

最近人事係はプレスメント及記録を加へて人事管理部と改称した。主任はジョセフ・コールマン氏である。エドベス・イン氏を補佐す。スチード嬢が人事相談役である。新組織に依り、当部は白人の人事を取扱ひ個人の記録を作る。

事務取扱部

当事務所の主要任務は出入の書類手紙の整理である。主任はスチード嬢補佐としてBMAイビに飯田サム中村ハリー三氏が働いてゐる。他に電話及テレタイプ、の取扱も行ふ。エレン夫人、シヤクソン嬢、ウィルギンス夫人、カーペンタ

ー夫人、電話係又キヤンプ夫人及根本嬢がテレタイプ及テレグラフ係である。事務支給品を行政部の諸部門に配給するのことが部の仕事である。一週受取る郵便の数は九〇〇一—二〇〇で、送数は一五〇一—二〇〇である。

供給部

行政最大の部門にして、悉く最も重要な部門たる供給部は供給主任CVAブテグラフ氏の監督下にある。当部の下に郵便サービス食堂管理購買部及運用部がある。同氏の仕事は之等部門の仕事の聯絡を取り、その能率向上に努める。

郵便局

事である。同氏は又立廻者財産係コンナー氏が着任する。毎日本人の財物扱ひを行つてゐた。

十月新築の郵便局ビルが出来上る。地は二十区の一室で、事務を取扱つてゐた数ヶ月前BWSピアス局長がCRブリツカー新局長にその職を譲るまでマツギの郵便転住所支局長として過去一ヶ年、好成績を収めた。当支局は郵便爲替、パースルポースCOD等のサービスを行つてゐる。郵便物は一日平均三千到着し、二千發送される。スタン・ブマネーオーダ

一の發行局は一ヶ月平均三万冊に上る。局長の下に、アス夫人、シン、フソン夫人、クラウド夫人が彼を補佐してゐる。日本人の監督は清水アーサー氏である。

購買部

スーパから釘に至るまで購入するのが、じじム・デー氏を頭に置く購買部の仕事である。衛佐として、じじム・マッソ・ガワン及日本人主任ドン・伊藤が居る。購買部はセンターで使われる全材料、器具、供給物の購入を行ふ。しかしセンター内で作られる材料サプライ等は例外である。数量から古ふと食堂用

品、生活用品が何となく一つの大園である。しかし一つの契約で一番大きなかつたのは排水カントラクトであつた。医療局自動パ、土教械、事務用品、建築用品等も大量購買せられる。購買地域は、ミサセ州及DCに亘り、学校、の器具、材料、教科書等と全部、部で買入れた。最初の六ヶ所は、プライオリティ優先権の爲に購買役人は自身の知つてゐる所を頼つて買はねばならなかつた。当部の盡力で出来たグラデー及修繕所は、十軒住所第一の完備したものである。

食堂管理部

八四六四人の住民に一日二万五千の食事を与へる重任を有する当部の主任はお馴染の、LAメイ氏である。此の人数は中位の兵營又は相当大きな町位である。一人一日の食料費はWR A規則で四十五仙に定められてゐる。又食物統制は外部、銀行はねつ、ある。転住所は負傷と違つて乳兒から老人迄居る爲、食糧購買料理活等は非常に複雑である。かくの如き困難に直面してゐるに拘らず、四十五仙内で相当の物を吾々に提供して呉れる当部の努力には感謝する。メイ氏補佐はチャールス・ウツドラフ氏である。彼等の監督下に三十三の食堂、食糧倉庫、豆腐製造所がある。近く石炭工

場と計画されてゐる。食堂競走には三十四食堂と二十六食堂が各、優勝旗を獲得した事は吾人の記憶に新しい。供給部の一部は、運送部はセンター南、始當時は現在農園トラクタ一部主任、サム・コルマ、ン氏が主宰してゐた。爾来センター活動に必要なる車輜は、勿論、ブローダー施設と拡大され、転住所中で最も立派な、このとなつた。当部はハリ、Fナフが部門主任として供給部長、アブデブラフ氏の監督下に活躍してゐる。ナフ氏は主として機具取扱部、又ジョー・シ、R、テ

運用部

イーア氏がモータープ
ールを指図してゐる機
具取扱にはシニアメカ
ニクス、エンジニアング
ン氏、ジュニアメカニ
クス、ジョーパトリック氏
が働いてゐる。

トラックドライバ、
コールフルー、グラ
ー、自動車修繕鍛冶
ー、グステーション等本
部門に属し、それぞれ日
系人が分擔活動してゐ
る。

ブラツク・マネジャー

区民の總ての問題に涉
り責任を以て干渉し常
に転住所当局と区民と
の間に立つて当局の方
針を諒解徹底せしむる
一方又区民の福利を考
慮計画して其実現に努
力し時には区民の要請
を提げて当局におむる
などブラツク・マネジャ
の任務は実に参事員の
それと共に極めて重大
であり又其の地位は所
民社会からと当局から

と常に注意を惹く重要
なるものである。
其の名称の邦語訳は区
支配人とすべきであら
ふが区長の称を用ひた
のは本紙の記事に依る
のではなかつたらふか
先と再と区長と云ふ名
称は其の實際に当て敷
て居るとも云ひ得る状
態である。
抑も区長はWRAの定
むる処に依ればプロジ
エクト・ダイレクターに

依つて推薦任職される
所内WRAの有給吏員
であるが当転住所に於
ては特にジョン・スト
ン所長の取計に依り区民
の選挙によつて廿一才
以上の男女区民中から
推薦され所長の承認に
依つて確定する事を例
として居る。
一九四二年十月下旬サ
ンタアニタ及スタクト
ン・アセンブリ・センタ
ーから約八千の転住が
大體済んだ際にジョン
・ストン所長の推薦又は
区選挙に依り初代臨時
区長が選任され其の幹
旋に依つて各区の大体の
組織が成立した。住居メ
ス就働員の設定、室内設
備の木材暖爐用薪木の
供給等當時は所謂転住
所草昧時代で実に複雑
繁多の問題があり併と
當時はまだ自治市政も

実現の運びに至らな
つたから所内の諸問題
は悉く之等区長諸氏に
依つて取扱はれた状態
であつた。当時区長諸氏
の貢献は之を記念すべ
きであらふ。
左に初代以来の区長諸
氏の氏名を順次掲ぐる
事とする。但し初代臨時
区長氏名記録は所内に
全々無いのを甚だ遺憾
とするが左に掲ぐる第
一次区長中の大部分は
初代臨時区長たりし人
々で僅か三、四名が漏れ
てゐるのみと思はれる。
第一次区長（一九四二
年十一月選挙）
在表中に一ヶ区に二
名以上氏名あるは前
者は任期中転職又は
所外転住に依つて退
職後者はそれに任補
されたものである。
――浜野シエム、田村克

1 3 3 海谷デツク(4)吉
 野武雄(5)国島レイ(6)伊
 達収(7)榎塚安道(8)川崎
 哲(9)岩橋要(10)稻坂ジヨ
 ーシ(11)高露耕作(12)青木
 喬二(13)奇藤ビル(14)上原
 チヤールス(15)佐野サム
 16 吉本ビクター(17)内山
 ジエリ(18)福本数雄(20)
 奈良進(23)津崎清太郎(24)
 大瀬戸テツド(25)三カ谷
 春登(26)井口將邦(27)藤本
 由津磐(28)上杉輝雄(29)西
 尾フレッド(32)三宅子作
 33 藤渡模三(34)坂家ハリ
 1 38 金子新一郎(39)秋本
 豊(40)伊藤新太郎(41)川口
 康

第三次現在区長二九四
 三年十一月選挙
 第1区 馬場 利行
 2 吉井ジミージ
 3 大下 応
 4 安達政子夫人
 5 小林 花雄
 6 伊達 収

大石 光平
野沢 有
岩瀬 要
水島 美津志
高露 耕作
藤原 佐輔
前田 繁一
望富留 次郎
池添吉之助
花田 敬一
池田 祐吉
本田 藤三郎
富山 高根
大島 信藏
西本 照一
岩見屋 武生
井口 將邦
藤岡 虎治
山下 源六
木田 義雄
白石 勝藏
中村 工入
梅敷 玄孔
金子 新一郎
秋本 豊
伊藤 新太郎

41 山崎 東

○区長会議 毎週一回
週の初頭に区長会議が
開かれ当局の指令及び
区民に対する要望並に
報告を行ふ外各区共通
の諸条件を討議し尚題
の性質に依つては市政
参考会と協力して所民
の福利のために努力し
てゐる尚区長会常任役
員及各部門委員は左の
如し

議長伊達収 副議長岩
橋豊 秘書高露みよ子
○家宅部及社会保安部
委員吉井ジヨージ安達
政子夫人 本田謙三郎伊
達収

○燃料部委員大石光平
高山高根謙岡虎次
○食料部委員岩橋豊野
沢有馬場利行

○会計部委員金子新一
郎梅敷玄孔山崎策白石
勝藏前田繁一

事業運用部

副所長 ジェームスフレインス

当部主任Jフレインス氏は調和転任所に一番早く任命された人であり農園の実行主任であり又一九四二年十二月に副所長に任命された人である。同氏はアカンソー大学出身の農学士で高校教師を経て農務課FSA等の職に就任した経験深い人である。

当部主任として氏は消防署、農園及エンジニアリングの各部門の活動を計画指導する。グレイスベイリス夫人が当所を去るまで秘書をして居たが現在石丸アキ及掛橋フランシス両名が秘書を力めてゐる。

消防署

調和消防署の記録は十転任所中最良記録の一つに入る事が出来る。一九四三年十月ヘイスミラー署長の指揮下に開始され諸種の困難を征服して今日に至る始め火事の危険に対して一台のトラック千尺の

ホース手造の筒先と責任感を以て闘ひ好成績を挙げたかくしてゐる間に二台のマック消防自動車が増着した。

六月ミラー署長が職を去つてからドンWジョーンズ氏新署長にJFメイイルス氏副所長に各就任した。日本人消防夫は六十人居たが職責減少の結果定員四十名に減らされた。その上多数出所せる為の過去数ヶ月間十八名で仕事をした。一日廿四時間六人宛働らいてゐる。

近く消防夫と制服及耐火服を手へられる事と思ふ日本人署長森本宣夫三人のキヤプテンを上手で決打明森本四郎の語氏である。近々制度を改めて副チーフ三名キヤプテンを六名とする筈である。

エンジニアリング

本セクションはジェームスRライン氏主任の下に一九四二年九月廿五日組織された。ライン氏は三十五年間ライセンズドシビルエンジニアとして経験の豊かな人である。氏の監督下にコンストラクション及メインテナンス、排水及設計の三部門がある。

○コンストラクション

テネンズ

主任はケネスコール氏の二年十月五日赴任同月八日プライオリティー入す直ちに白人パラソクの健康に取かゝつたが人員の変動等の為め工事は遅れた。然し必要

材料の到着と四人の経験ある日本人建築家の参加に依つて其地盤は確立した。更に部員の技能と熟達と相俟つて仕事は順調に進み過去年に於て同部は十七バラツクから出る白人アパート、ギヤフリ、プラデ、建増、冷蔵庫、朗和、高技、建物の増築等を完成しセンターの大公会堂と着々進行中である。

○排水工事は、M、F、E、A、L、I、指導の下に、一、五、英、加、開拓目標に五十五哩、堀割の工事を進めてゐる。

○設計は製図村岡三郎氏設計、藤田シヨウ技師首班となりて完成されて行つた。

○建築部は牧野省己氏監督の下に、H、岩名、主、佐、M、大下、H、東尾、S、小泉、以下左の人々が、F、オマン

ロメンテナンス、丁政岡、
○キヤゴネツト部、W、山崎、R、藤原、Y、荒川、
部、丁、田村、丁、島川、
S、岩見屋、K、香川、G、美須、
S、岡田、M、庄田、F、恒川、
矢野、O、岡崎、A、五十嵐、
ブラマー、O、松尾、H、若林、
ロセメント、K、浜村、
ンター、I、向井、
ルク、竹、李、
根、口、サ、ベ、ア、H、西

農 園 部

本部はセンター食料自給自足の建前から最も重要な役割を担つてゐる。農業の神様の様な日本人にやらせる仕事なので大に期待され副所長、J、F、レーン、S、氏を首魁者として今年二月中旬、阿外東側の数百英

加の土地をリースして開始された。如何に経験に富んだ日本人でも全く未知な土地と自然を相手とする農作物を仕上げるやうとするのであるから種々の困難が伴つたが僅な失敗を見ただけで興味の好成績を挙げた二月から十一月迄の収穫は実に百五十万余斤金額にして五万九千磅と云はれる。

同部は、鐘ヶ江善助、西川フランク、西氏を監督に、井上平次、平本英郎、渡辺作次郎、石丸正吉、山口室市、及近次作の諸氏が相談役である。

重要な作物は、薯芋、葱、白菜、大根、人参、芋、その他和洋の実用野菜類を細羅し、今春からづつと吾等の食糧に供された。

耕作成績を示せば、
○植付英加数一千〇七

百七十英加
○収穫量、数百五二万八千三百三十八斤
○価格、五万八千八百六十七磅

○養豚部
養豚部はトーマス、M、バウエル氏監督の下に七月四百四十頭、八百斤を以て開始した。設備は余り完全でないし経験に乏しかつた為、最初は相当のダメージを蒙つたが現在では伊集院百夫氏主任でよき成績を示して居る(次頁参照)

○チンバー及ランバチ
ヤツキ共に同部門に属し堀割下掘への役切とセンター民家の暖爐燃料、約三千ト、ラツ乙は之のクルーに依り供給される。チンバー部は泉寛吾、ビル古岡、ランバチマツキは、部部耕造、小山宗吉の諸氏が監督。

農園收穫一覽表

(一九四三年度)
自二月至十二月

種目

植付束加

收穫斤量

種目	植付束加	收穫斤量
王葱	三	一六三三五
金禮子	九五	九〇〇
ラヂシユ	二四五	一二六一三六
白菜	七六七	九五一七八
ポテト	三二	三六九〇〇
スピニチ	四八七五	一九〇六六
人参	一〇	二五三七五
辛子菜	一四	七五二〇三
ビーツ	八五	一五九一六
英國ピー	一〇五	二五九〇
レタス	九八八	三〇七二一
スリスチャド	六五	二九七二四
ヘイ	八三五	
牛蒡	四五	
胡瓜	一三五	一二八二三八
キャベジ	一一五	一五五六四
大根	一三七	一四二三四〇
オクラ	二	五七八四
スナツフ豆	三〇六	二二三七七
玉蜀黍	二〇七五	四〇二一六
コーン	六八	
スクアシユ	一〇	二〇七〇七
大豆	一六〇七	四三〇〇〇

赤茄子

西瓜

甘藷

ペパ

茄子

モタロフ

ピー

セロリ

オリー

尚ほ虫箱害其他失敗に終つた王葱、種子、ピー、大豆等百六十八束加余

豚の成績

〇買入

〇暑夜供給

合計三〇七

価格

現在四百八十三頭、十二万四千三百四十斤で廿七頭は最初設置不完餌等の為の病傷の結果失はれた損失である。豚は一月約一斤づゝ重量を増して行く相である。

五四七五

二二七五

二五五

六九五

二五

一四

三四五

三一

一六二

一一六八五

二八五五〇

八二八〇〇

五四三一八

三四〇二三

六〇九六〇

六〇〇

七月

九月

七月八〇

八月六六

九月三〇

十月六五

十二月六六

五五九七

一一一三九

四〇四〇

八〇〇三六

四七九五〇

五五九七

回顧一年

角田千太郎



昭和の生活で滿
一ヶ年となりたわ
れ／＼がどんなに
漂着して如何と
する事の出来得な
つた戦争と云ふ偉大
な力に依つて此所まで押
し流されて来たのである。

家族や友人から離れ
はなれにならなかつた
だけでせめて幸ひ
であつた。中商や加
奈陀の同じ境遇にある
人々よりは幾らか良い
條件に置かれて居る事
を思へばあきらめこつ
く厭であらう。
それにしても此龍の
中の生活もお互の一生
にとつては再び繰り返
へず事の出来ない博い
人生の一節であるが故

にセンター明細化の爲
めに各自の与へられた
る仕事するにあたり各
自が

奉仕的努力

をする事が最も大切な
事ではなからうか

転住所の生活が漸定

的のものであつて永え

的のものでない事と明

瞭であると同時にわれ

／＼は再び太平洋沿岸

に歸るか日本に歸つて

隠退するか南洋方面に

更に發展するたのみに

大に奮闘するか然うな

には現政府当局者の奨

勵してゐる様に東部又

は中部に分散して再

転住する以外には方法

はない
戦後の占領的経済と
いふ見地から考へる時

に個人的企業から一躍
集團的起業時代が来る
事が予想せられる。殊

に農業家を中心として

考へる時に農具肥料種

子其他日用品食料等々

の共同購買から生産か

ら販賣までを全部組合

によりて處理せられる

事が戦後の不況時代の

維生を突破し得る最善

の方法ではあるまいか

斯かる見地から何時其

時が来るかは別として

必然的にいつか来るの

であるから今から同志

を糾合して五家族十家

族或は五十家族と集團

を作つてそれ／＼意見

の交換をすると同時に

計里を建て、行く可き

である。

此の運動を併合して此
の組合運動の實際の方
面に誘はるべき道を考
へて行く事が已下の我

々にとつては最も緊急
の問題ではあるまいか
是等指導者を二占の

若人の間に見出したい

やして彼等が献身的に

民族の將來の爲めに立

ち上つて組合運動に就

いて科学的に研究的に

又實際的に研究せられ

る事を待望してやまな

い。やして一古諸君が

是等若人のために最善

の指導と理解と援助を

与へられる事を要望す

るのであります

物を正しく見るに

は距離が大切であ

る。眼をよせると

その一部分だけは

よく見えるが全体

を見る事は出来な

い
——(東渡)——



回顧雜感

朗和市政事合議長

玉城重盛

×朗和時報が一週年記念号を出すから何か書けとの命令ペンを執つて過去一年を顧ねば轉た感慨無量なのがある。

一九四一年十二月七日青天の霹靂真珠湾の奇襲により、日米百年の国交は破れた。翌二年三月西部沿岸警備司令官に依り日系人總立退きの指令下り過去五十年在米同胞が拙々辛苦の経済的及び社会的地盤は根柢より覆へられて我等は臨時集合所に収容されたのであつた。

フラジールに対する新しい疑惑を生じた爭持系の生活に対する不安と無縁の渦中であつた日系人としては又無理ならぬ反響であつたであらう。

×数ヶ月に亘る統一のない生活が續いた後、更に各地の転住所に移され従来の生活よりはやゝ落付いた生活に入つたのである。

×この転住所ではWR Aの方針に則り居住民に自治制を許可したがその自治制参加の資格として発布された廿一才以上の市民に限るとある條項には全一古が矢張り遺憾の意を表明したのであつた。それは転住所内に居住する

限り市民、非市民たるを問はず同じ利害と環境に置かれてゐると云ふ理由であつた。當時は居住民間に組織と統一が缺けてゐたとは古く一古の總意であつた斯の叫びは当然所長ジョンストン氏に伝達された。そこでジョンストン氏は斯の方針に戦時転住局の指令であり自分一個の権限では如何と云ふする能はざるに依り老づ額同制度を設けて二古のみを網羅する市政参事会に一古を代表する額同の意志を反映させてはどの程の健康な意見で各區より一人宛の額同を提出したのであつた。

×則ち才一則の自治政体であつた我等の朗和参事会が実質的には二古より選ばれたる参事

員と一古より推された額同諸氏との寄合所帯でその主なる任務は憲法の作成であつた。故に臨時参事会が自治制の根幹をなす憲法の作製に忙しく当然彼等の責務である所内居住民間に於ける当局との諸問題が當時既にその基礎の出来てゐた区長會議を中心とし處理されてゐたのは之等の諸問題の性質がその管轄権限に属しなかつたとは古へ又やむを得なかつた事であるが争う時宜を得た臨機応変の處置だと信ずる。

×六ヶ月の臨時参事会任期の終了を契機として転住所内の新状況に對する当局の再認識は参事員の被選挙資格を一古二古の別なく認むると云ふ事となり第二

期の参事員の選挙の結果は殆んどその大半の議席が一占によつて占めらるゝに至つた。而して斯る新しい事態が生じたのは当局の新方針として実施せられた再転住計画の結果特に二占の興味を漸次所内より外部に移つたと云ふ事実は見逃せないであらう。

×第二期参事会である永久参事会は所謂自治制の建設時代で参事会統轄の下に司法教育衛生転住労働食料及燃料人事矯正隔離調査等の如き各部門を設け是等部門の委員には参事員のみからでなく市民あらゆる方面から適材を適所に抜擢し各々其の機能遂行に万全を期したのである。

之を概括的に云へば戦時転住局が我等居住民に与へたる権限内に於て持つ所の唯一の自治機関であつて参事会として居住民の権利を最大限度に發揮し以て全居住民の期望に應へる所以である。

×顧れば初の自治制が布れた當時二占を代表する臨時参事員と一占を代表する顧問諸氏との間に施政方針に就て隔意なき意見が交換され爾来両者が此の方針を遺憾なく実行に移して今日に至つた。而して斯の不文律として守られて来つた基本方針は一占二占間の完全なる融和結合と時局に對する正しい認識の下に輕率妄動を慎しめ勤く其太陽が西の空から出て来た様な騒ぎを未然

に防止したいと云ふ態度に外ならなかつた。

×我等の住む朝和転住所が若し金センタ―で一二を争ふ獲銀センタ―であるとなふ批判が争突だとなれば不肖は是を一人の和則ち全所民が渾然一体となりて和衷協力した賜であり(一)温厚篤実にして日系人に理解あるジョンスン所長ある事(二)地の利則ちポストンヒラハートマンテンの如き茫漠たる砂漠の中に建てられたる転住所とは異なり陽光の愛撫伸びて行く千古の森林によつて三方が囲まれてゐる自然の變化力が手估つたのであると信ずる。

×とは云へ真の日本民族の血を受けた我等は従らに過去の受難の教々に泣言を繰返して意

氣消沈してはならぬ。百難更るも吾屈せず米國に於ける日系人の將來を如何にして建設すべきかと云ふ重大な問題に付いて全日系人が一致となり臥薪嘗膽せねばならぬ換言すれば轉住所は弱者や敗殘者の隠れ場ではなく寧ろ日系人が將來への飛躍の鳥の準備と修養の場所としての大きな意義と価値が発見されるのである。

×かゝる意味に於て現下の我等の生活目標未の飛躍に對する訓練である事を自覺し隱忍自勵取て来る可き新時代に備ふべきではあるまいか。

×極めて断片的で粗雑な駢文をものにして所感に代る次第である。

無題録

波光生

友達にMと云ふのが居て、よく江戸時代の話題に引張つて行く。例へば「東鴨島村等」のどけぬき地蔵と云ふ

石地蔵は、あれは実は下谷から移転して行つたもの……バ、アムの用心の神様か？ あれは京都愛宕山火防將軍地蔵大権現だ。「御行の松」と云ふのは、あれは若一名時雨の松と云つて東京の根岸時雨が固不動の境内にあるよ。てなわけで一々暗記してゐる。

正月の餅を彫出して、いゝ頃だが、日本でも物餅と云へば浅草の浅草餅、九州大宰府梅ヶ崎餅、鎌倉の権五郎餅、それらが前ひつて来たが、日本人が餅を食べると云ふ事だけはメシケン三界に亘るても忘れないのだから不思議な。

僕は夢の様な支那街に一程のアコガレを計つ

てゐる。敢てシーコ、シーコや馬鹿衆が目標ではない。そこに突んでゐる大都會の体臭の様な空気、そしてあの支那飯の味……それが我々の胃腑の奥深く忍びこんでくれる時の心持……此辺の林は奥をな可なり奥へ行つて林の本舞台と云ふべき境地まで行つて見ても、泉石のたゞすまひと云ふ様なものでなく、日本辺りで味へられるいはゆる松猿夜が猿元を冷やしと云ふ感じと起らない。幽玄味よりも無常味と云ふ晴々した、そして爽やかな振を美しつゝある。

サイン・シヨツ

所内各エニツトの番 古へるギヤンテン地号孔から足で踏む可くの目技の場所粗からずの〇〇のサイ 未ながら一軒家を尋に至る道何方か何十 有してゐるが此夏まむか或は何百のサ ではあちらこちら倉インは終てサインシ 聲の響を連ひ通されヨツプからはみ出し てるた。

て来る。平井十九二 定から二人は眼鏡、也と深見平也のよいコ しに連行の群衆の品ンビで朝から晩まで 定めに、住めば都の喧嘩とせずにはラン 有るを味つてゐる。を動かしてゐる。 西人共至つておとな今は朗和の銀座とし い無口な独身者だ。



猿の禮儀

くまの生

真珠湾第二回紀念日
過ぎ吾々も漸く環境に
馴れて一應くまへはキ
ヤンプズに於て来た昨
今ケンタニアニツ時代お
元気でですか？お交り有
りませんか？と云ふ交
りに何かあつたかい？
今日ではミートだぜ！
と眞剣に話し合つた事
を思ふと隔古の感があ
る。

ユートを食はんとして炎
天下に老人と女子供も
一列に時には延々半哩
の長さに並んでた事を
哀しく想起する。
岩井龍雄の轉に駿の山
三の河英雄の出る處水
清しと云ふ様な一節が
あつたと思ふケンタア
ニツの如き風光明媚地
で少しで幾何さした
少年の間からリコン
の如き自由平等を愛す
る眞の英雄の生れる事
を希ふ。しかし家庭の
神聖と親密にない至の
られたキヤンプ生活か
らアルカボの如き箇の
英雄の生れない事をこ

堂が次の如く書いた事
を記憶する。即ち人間は
闘争を好む動物である
人間の歴史は幾多の血
腥い戦争に彩られてゐ
る戦争は都合を藝術を
財産を一時に天塵に帰
せしめるしかし戦争に
依り科擧が思想が進化
した事は事実である彼
壊せられた都合の跡に
より新しい立派な都合
は造られる。
此の闘争を好む人間の
一面にはより進み平和
を愛する心があるのだ
クリスマの夜聖歌をへ
だて、敵味方が合唱し
たり前線の方々が常に故
郷へ平和な故郷へを思
ふ事は彼等が平和を愛
するからた。食ふや食

はすの戦線に於ける兵
が敵兵を百人殺した時
と一羽の鶴を兎兎した
時とどちらが好しいだ
らう？
戦争の原因は今省いて
戦争は吾々を家から土
地から商賣から追ひ去
容断に絶たした国防上
の必要がその理由の
に。しかしエバキ、ユイ
シヨンの際、シヤツプ
はシヤツプズだのを遠言
を吐いたデウィット將
軍戦争がすんで日本
人を沿岸に帰すなど宣
伝してゐる。ケンギスト
にステリ―屋連が居り
日本人の経済的進出を
嫉妬する幾多の英米家
群日本人排少數民族向
題を以て自己宣伝の具
とする安撫な政治家の
居る事を氣の毒に思ふ
私は或る時猿の話を
いたしよく馴らされた

猿が二匹色々の藝を見
せた後で帽子を以てお
客から一仙二仙貰ひ一
々おぎぎしてその礼儀
正しさに見物は感心し
た。一人の子供が何と
手へるものがないので
手にあつた密柑を授け
与へたすると猿の事で
怒ちお憤首と礼儀を忘
れて密柑を奪ひ合つた
と云ふ。

実に後者尸史の一頁に
交る大問題である吾人
の一人々々が其の主入
公であるのたエバキコ
ーシヨンの是非は別と
して此の不規則な環境
の下に吾等と猿となら
ぬ様注意し猿人向に平
和を愛する心がある以
上戦争も永久につづく
ものではない。辛酸と一
度過れば不可言の口味
を主する欧州には吾々
より困窮に瀕してゐる

幾千万の人々が居る忍
耐しよう忍耐はすべて
の罪を聞く。

成人教育部

過去一ヶ年の方針と科目
今後は力を職業教育に注ぐ

当センターの成人教育
部は過去一ヶ年に於て
ペンター居住民の思想
及趣味の向上をはかる
方針で

□ 李研的な科目として

心理李、経済李、原理導
記李等アカンソー州

立大李より認可され
たる李科を始とし音

樂、米、國史、米、國南部、
史、数学、物理等

□ 職業的な李科として
裁縫、製帽、速記及タイ

ピング

□ 趣味的なものととして
図画、彫刻、琴、三味線等

○ 今後は方針

現在では WRA の方針一
部の為の外部再転住を
奨励すると共に成人教
育部のそれと職業方面
に重きを置く事となり
科目と

□ アカデミックスなどの
は英語、日本語等に限

られ

□ 職業的夜李部では速
記、タイピング等を始

める看護補助手、自動車
メカニックス、電気工電

気、裁縫、ミシン等

□ 職業養成科には
OSYA (アウトオブ

スクール、ユース及び
アダルト、ツレニン
グ運動が全国に盛ん

になると同時に当セン
ターに之が実施され
る。

現在その一部内なるル
ーラルプロダクション
ツレニンングコース農
村生産養成科として自
動車職工(六)フラック
イピスト(三)を養成中、大
工、指物、大工、コンクリー
ト工等を順次養成する
(成人教育部発表)



朗和閑談

昨年十一月下旬初めた
時事解説と二エース報
道の為朗和閑談と題を
重ねる幸二面五十面に
及び延人員にすると思
衆十二万以上となる。

多り行く世界の状況に就て軍事外交政治経済を始の國內問題に於ては特に労働問題に就いて微に入り細を穿つて話して来た。時にはペンタゴン内の重要問題にまで言及した事を敬重する。

連續講演殊にそれが通俗的のものであるだけに二百五十回と云へば可なり長いレコードだと云へる。

夕き方上手の聴衆に引きずられて疲労も出さないでつづけられた事を感謝してゐる。

事情が許す限り引きつゞき今度其の出来るだけ豊富な材料を探し出しつつかり勉強をつづけて此のセンタ―に居る間此の肉談を續たい。

至極肩のこらない肉談であるけれ共龍の中に

閉ぢこめられて二ユーロスへ十分いき由がない人々になりかかつて眼となり耳となる事の無慈悲の事ではあるまい。今は故人と云つた伊藤痴遊代議士は在米同胞は三十年後れて文明国の米國に居ながら古間的に取り残されてゐると酷評してゐたが其日くの新夕さる讀む暇がない程汗を流して傷かおぼならなかつた在米同胞に取つてせめて此の中に監視せられてゐる肉眼に多少でも智識を注入すると同時に平和克服後戦前と全然變つた新しい世界に投げ出される我同胞に多少でも心の用意をして置くために多少お役に立てばと云ふ気持ちから不敏を省みず此の肉談をつづけて

る。版である。(角田千乃太、村岡四郎)

PTAの展望

当所内に現在四つのPTAがある。それは西

部小學校、東部小學校、ジュニア高校、ジュニア

高校と云ふわけで、昨

他夕に洩れず是等が

ろく、頭を擡げて来た

は今年の三月下旬から

四月であつた

西部小學校PTA第一

代の幹部成立は四月で

其の額振れ始つた

のが十二月で

会長 村岡 夫人

副会長 藤部 夫人

全 伊藤 夫人

幹事 大久保夫人

通信幹事 山口 嬢

会計 田中 夫人

東部小學校PTAが来

る。その草分の幹部は

会長 ブック 若松

副会長 天村 夫人

幹事 奥アリス嬢

会計 古石 星氏

後援内閣にお計が廻う

たのは九月で

会長 新谷 夫人

副会長 安田 新太郎

幹事 竹田リ嬢

通信幹事 泉 嬢

会計 田中 夫人

第二回目か之に代つた

會計 五十子二町氏
 初等高校PTA初代幹
 部に白羽の矢を立てら
 れたのは四月下旬で其
 額振れは
 会長 坂倉憲治氏
 副会長 五十子夫人
 全 井口米蔵氏
 會計 石田 夫人
 幹事 井原 先生
 後継幹部が受継いだの
 か十一月で
 会長 小室 夫人
 副会長 伊藤 夫人
 全 梅田 夫人
 幹事 角田 夫人
 記録書記 高木 夫人
 通信書記 渥美 夫人
 シニア高校PTAの興
 礎工事は四つのPTA
 の中で一番古いと認め
 られた。たつた一ヶ月
 早いだけの三月でそれ
 から七月迄続いた
 会長 松沢 敦
 副会長 五十子夫人

警務會計 有馬松子嬢
 二代目は八月初めより
 九月迄
 会長 五十子夫人
 副会長 平原 夫人
 幹事 有馬松子嬢
 三代目は八月中旬に成



五等小学校図書館

立して現在に到るこの
 会長 本多 夫人
 副会長 平原 夫人
 會計 藤田 夫人
 幹事 五十子夫人
 英語 古田 夫人
 英語 中道 夫人
 の紙箱や材木を拾ひ集
 めて作つた。四名の従
 業員の努力でとうやら
 図書館の看板をかける
 事が出来十二月第一月
 曜日に目出度く開館し
 た。初月としての成績
 は良く約六百名の讀者
 と五百余冊の書籍貸出
 しがなされた。
 其の市スタクトン公立
 図書館から書籍四千七
 百冊の雅集四千余が
 到着し始めてWRAか
 ら本籍一個スタンパ
 ツド、ペンホルダー
 二個、鉛筆半打等が配
 給された。
 リルラツク公立図書館
 からサハララー嬢が
 当所へ来任した。同嬢
 を通じ学校用の書籍買
 入の件も研究されたが
 資金のないCAではと
 うする事も出来なかつ
 た。
 配をすゝめて行つた。
 スタクトン収容所より
 百箱余の書籍及び雑誌
 を取り寄せた
 第十のPSを仮図書館
 として使用する事にな
 つたが未完成のホール
 でまだ屋根もなかつた
 十一月初旬にホールの
 完成と共に書籍を運び
 入れた。その書籍を置
 く棚もなくテーブルも
 なく各々のメスを廻り
 歩いた場句甘々メスカ
 ら漸くセツのテーブル
 を譲つて貰つてデスク
 とした。讀者に使用す
 べきカードは各自持参

タイプライターも一台では間に合ひかねたが配給されなかつた。一八四三年一月には石炭の配給がなく夜間閉館不可能であつた。C Aから寄贈書籍が少しはいつた。二月には留中ツル子さんが教育部から移り手估つた。ミスラーチ及ブライス氏の盡力でゴットリブツクドライヴから書籍が入つて来た。石炭の配給があつて夜間再び閉館した。日本語の書籍八十冊C Aから寄贈して来る。其後も一占の爲めに日本書籍購入に努めたが資金が續かなかつた。三月三十五区に図書館が開設されて福山三次大賀テリ―西名從事した。

ミスラーチがリットルラックへ呼び戻され後就任した。

美術工藝

リー嬢を監督としてWRAN YA倉庫から取り寄せた材料を以て帽子製作造花裁縫及テーラーは勿論彫刻、繪画、焼物等の通称的な手藝工芸等の美術部が置かれた。裁縫部の卒業式作品展彫刻品等次々に催された。当センターの作品はセントルイス及紐育等の展覧会へも送られた。リー監督の去つた後此の部門はC A及成人部の管理下に移されてゐる。現在の主なる部員はドロシー木村アーン及

アラフシ

小林マサエ(織物)

小笠原幾代(同)

ジヨージ岩瀬(彫刻)

木瘤の採取

鶴湖の小貝殻、トパスの矢の根、コラの鉄木を古つた様にそのセンター／＼によつて特殊の採集物があつた。吾が同胞諸君はこうした鉄木の中に伸吟しながら尚ほ且つ美術的に趣味的に普通木人から省みられぬ埋れたもの、採取により更に之に加工

する事に依り血脈な藝術品を生み出すばかりでなくそこに生活の潤と慰安を求めて行く。吾が同胞センターに之に匹敵すべき名物に木瘤がある。即ちボールドサイプレスのニイで水分の多い處に生長す此の木は根に無數の瘤を発生し環々の形状を呈し頗る野趣に富んだものである。此の地元の人々には一顧の値ないものとしてゐるが同胞は之を蒐めて素晴らしい美術的なものに作り上げた。此の外あらゆる木の珍奇な瘤が集められ驚嘆に値するものが多い。





開 體

C.A.のクラブ及団体部
は永井勝人氏が主任で
活動し基伸男女青年会
ボイスカウト赤十字
を始め大小無数の社内
各クラブ及団体の活動
援助を爲し過去一年間
に於ける異数の成績を
挙げ来つたが少年少女
の爲のトイランドの設
置やボイスカウト赤
十字諸教会に対する種
々の世話は表面化しな
い實際の仕事は着々と
進めて行く功績は一般
の等しく感謝する處で
ある。

永井氏出所後は用田
スレース嬢を次いで
活動をつづけてゐる
現スタツフは

監督用田グレース嬢
北田政雄及田メリー
村岡夫人斎藤夫人

ローヤルデュークと
女王コンテスト

ローヤルデューク主催
の下に朗和の女王コン
テストが二月中旬催さ
れた。

結果中野シゲ子一等山
田きみ二等松全ローシ
一三等に当選した

朗和青年会

一九四三年三月十四日
朗和青年会が創立され
た。会員二百余を有し
発会式は第二区メスに
於て盛大に行はれた。
当時の幹部は

○会長内藤今夫。○副会
長山名信一。武田谷博之
○書記岡本徳義。古本光
男。○会計米本等喜雄。尾
形一郎。○社会部高田一
郎。永井ゲリー。○会計監
査上田要。青木貞夫。○運
動部松井正夫。上野司。○
情報部竹山傳馬。場利行
○理事野沢有倉。地敏之
森本繁行。武田司郎
同会は毎月集會を而い
て会員相互の親睦を促
かる外四月十日には柳
原牧師の精神講話を多
き。全廿四日及七月十
一日には雄弁大会を用
き。五月十六日には体
育大会を催し更に文藝
部を設けて部長に中野
幸正。竹田台博之。副に
武田司郎。部員に伊藤重
次。太田篤行。増田剛金。孫
省三。諸氏を挙げ常に修
養に努めたが鶴湖隔離
の事起るに及んで多数

会員を失ふに至つた。
廿八農場に於て留別大
演藝会が八月廿一日に
催された。九月四日には
男女青年会主催の下に
指別大演藝会を催し十四
日と十五日には隔離
の会員多数を送つた。
その後幹部の立直しを
行ひ十月六日選挙の結
果左の役員を挙げた
会長武田谷博之。会
計尾形一郎。書記武
田司郎
事務所にはF

朗和女子青年会

一九四三年四月十日第
一区メスに於て第一回
婦米女子集會が催され
六月十九日朗和女子青
年会發会式を八区メ
スに於て挙行した
幹部左の如し
○会長西川ハルヨ。○副
会長松本貞子。○通信書

記安井文子○記録上杉
アグネス○会計藤井光
子○社交部尾形マカ子
山崎君子○運動部坂田
メリー○顧問角田秋本
面夫人

○行事 八月廿七・八日
しA主催のカーニバル
にうどん及壽しの賣店
を出し、会員一同出動好
成績をあげた。○八月廿
一日男子青年会と合同
で留別大演藝会開催。○
九月四日留別大演藝会同
上。○十月七日第二回隔
離により、会員五名を送
る。○十月十四日会員衆
原よし之さん死去

朗和男女両青年会の記
録は大畧以上の通りで
あるが、両会の設立は所
内に於ける青年男女の
沈滞せる意気と、思墮
落せんとする青年層の
人々の生活に一掃浪刺

を与へたるの感あり、現
今に於ては其の大半を
鶴瀬に送つた為め、稍々
活動力を削がれたるの
観ある。センターに於
ける一つの力ある存在
として若き人々のよう
指導者となつてゐる。
華々しかりしは五月十
六日の体育大会及留別
大演藝会の催しの頃で
あつて、吾等が朗和セン
ター史中の一頁を飾る
のである。
会員諸君の健在と今所
の活動を期行されてゐる。

生長の家

朗和に於ける生長の家
は一九四三年一月十四
日第廿八回PSに於て
第一回読友会を待つて
以来毎月集會を續け精
神修養に資してゐる。

朗和修養会

平見彰氏発起の下に去
十一月二十四日第十四
回Fに於て朗和修養
会なるものが開始され
一宗教に偏せざる精神
修養の泉まりとして催
されてゐる。

趣味の集り

書道研究会

一九四二年末田井岐山
大川英願両氏の発起で
朗和書道研究会設立の
計画あり、翌四三年一月
七日創立。老若男女の
別なく、斯道研究が熱心
に行はれて居り、去十一
月二十三日より三日間
第三十四回PSで作品
展覧会を催した。

○吉野溪山氏指導の書
道会も多く、同好者を

集めてゐるが、去十一月
二十九日より三日間第
一区メスで作品展を催
した。

囲碁倶楽部

一九四三年一月菊地丸
山、初段指導の下にP
S4で囲碁クラブの設
立され、二月当局の認可
があつて、菊地初段が師
範となつた。以来毎月
一回位總当の催など
あり、盛んになつて行つ
た。後徳永氏が代り現
在の第五区PSに移り
依然として盛んである。

将棋クラブ

一九四三年一月廿五日
より大会を第四PSで
持ち、二月クラブ認可と
なり、柴田氏が幹事とし
て活動した。書記に島
田理事に荒谷山根、中谷
岡野、久保田、斎藤、石井の

記安井文子○記録上杉アグネス○合計藤井光子○社交部尾形夕ガ子山崎君子○運動部坂田メリー○顧問角田秋本西夫人

○行事 八月廿七・八日
 A主催のカーニバルにうとん及壽しの賣店を出し会員一同出動好成績をあげた○八月廿一日男子青年会と合同で留別大演藝会開催○九月四日留別大宴会同上○十月七日第二回隔離により会員五名を送る○十月十四日会員衆原よし之さん死去

を与へたるの恵あり現今に於ては其の大半を鶴瀬に送つた為め稍々活動力を削がれたるの觀あるじセンターに於ける一つの力ある存在として若き人々のよう指導者と成つてゐる。華々しかりしは五月十六日の体育大会及留別大演藝会の催しの頃であつて吾等が朗和センター史中の一頁を飾るものである。

会員諸君の健在と今後の活動を期行されてゐる。

生長の家

朗和に於ける生長の家は一九四三年一月十四日第廿八回PSに於て第一回訪友会を持つて以来毎月集會を續け精神修養に資してゐる

朗和修養会

平見彰氏発起の下に去十一月二十四日第十四回Fに於て朗和修養会なるものが開始され一宗教に偏せざる精神修養の泉まりとして催されてゐる。

趣味の集り

書道研究会

一九四二年末白井岐山大川英願両氏の発起で朗和書道研究会設立の計画あり翌四三年一月七日創立、老若男女の別なく斯道研究が熱心に行はれて居り去十一月二十三日より三日間第三十四回PSで作品展覧會を催した。

○吉野溪山氏指導の書道會も多く同好者を

集めてゐるが去十一月二十九日より三日間第一区メスで作品展覧會催した。

囲碁俱樂部

一九四三年一月菊地丸山兩初段指導の下にPS4で囲碁クラブの設立され二月当局の認可があつて菊地初段が師範となつた。以来毎月一回位總當戰の催などあり益々盛んになつて行つた。後徳永氏が代り現在の第五回PSに移り依然として盛んである

将棋クラブ

一九四三年一月廿五日より大会を第四PSで持ち二月クラブ認可となり柴田氏が幹事として活動した。書記に島田理事に荒谷山根中谷岡野久保田菅藤石井の

語氏が選ばれた。クラブは第三区PSから第五区PSに移った。碁將棋共に一古の趣味として最も普及されてゐる競技なので會員が増加するばかりであるが此の外碁將棋は所内各所に道場があつて何れも盛んな中に三十九区には三輪氏を中心とする將棋の名手が沢山集つてゐる。

かるた会

一九四三年一月鮎貝岩堀佐藤諸氏を中心としたかるた会が出来て第四区PSで練習が行はれ一月三十日大会が催されたがその結果は振はない。

麻雀クラブ

一九四三年二月十三日小早川岩堀角田中山城

石崎氏の発起で麻雀クラブが出来第三区PSで第一回大会を催し引續き盛んに行はれてゐたが余り長く續かずに終つた。尚家庭では年中盛んに遊ばれてゐる。

釣クラブ

スタクトン釣クラブの人々は一月二十四日新年宴會を渥美氏方井邊で催したに旧交を温めたが釣場のないセントアイズ方面の方面は振はらず七日頃所外に一面はハイズー氏を案内に黒バス釣りを試みたが余り香はしい成績も上らなかつた。

琵琶研究会

矢島鳳水師を中心とする琵琶研究会が四三年春から創始され現在二十余名のメンバーが

ある。センター及ブラツク等の催しに常に援助出演し所民慰安に貢する所が多い。會員の中に琵琶の樹を伐つて自ら琵琶を製作するやど風流の人がある。

詩吟

高木国刀氏を導師とする国風流詩吟道場が設けられ熱心に研究せられてゐるが會員數十人を算し益々隆盛である。国刀氏は入所以来初期のCA成人部を援けて或はセンターの催に出渡した事は広く知られてゐる。

義太夫会

一九四二年十一月青地青枝師氏中心に十五六人の同好者を以て義太夫の稽古を始めた。一九四三年一月十日最初の

お役合は第九メスで待ち二月日の出義太夫会と称へたが四月に至つて分裂一は青地師に依る義太夫会他は内田千代駒を中心とする千代駒義太夫会が出来た。千代駒等鶴湖に去つて現在の朗和義太夫会は古谷長門、島沢節子、松本安善、山田夫人、早川吉野、末高相模、山本夫人、松井伊豫、赤野電好のメンバーで熱心に研究してゐる。

此の他植松百合子藤岡島須磨を中心とする舞踊長谷川夫人を中心とする清元三味線、平原夫人、伊藤夫人、西見夫人等を中心とする生花、造花の研究、三浦夫人中心とする紙人形製作のグループ等美術芸術趣味のグループがある。



我等のギャンプ

M.T.

(1)

めぐる小車小止みなく
放浪いつしか三十年
古界は亦大鯢の
砲煙彈雨に見舞はれて
同記いつこりぐに

(2)

假りの宿りはアーカンソー
西も東も不知火の
拵につゞく詠和村
しどろくと降る春雨に
濡れて芽を出す山桂

(3)

大和島根にしられたる
縮取筋あらはれて
霞の奥に分け入れは
色こりぐの狀して
採らるゝ獲物今日の幸

(4)

さらばと約束明日の日も
口笛吹いて手をあげて
友の行手を見かへれば
黒い淫のなびく渾
紅い夕日の影遠し

(5)

綿の花咲く平原に
バンジヨウの音の響く夜
我たバー人佇めば
大空冴えて星飛んで
遙かに祖国を想ひやる

悪

夢

吾亦紅

或る日センターの洗場
で洗濯をしながらふと
思ふのは四十年の昔一
手洗からビジネスを入
タートした日本人の洗
濯屋朝飯等は茶に砂
糖を投り込んでブレツ
ドをむしつてたべた事
等思ふ。それからよく
張り夢だ！。

依慢して来たと思ふ程
のあらゆる辛味な迫害
を抜けてじり／＼慕き
上げた地盤それが一朝
にして狼こそぎ覆され
た。
そして今日自由を失つ
た西の中で鼻唄でゴシ
／＼石炭に白い泡を立
たせてゐる事を考へる
人の舌は矢



運動界

C A 体育部

体育部は一九四二年十一月一日鈴木良章氏を部長として始め創立された。運動部、進行部、運動部、修繕部等が之に附属し事務所を廿七号P.S.ホールに置いた。

体育は運動に關する住民に依つて之を指導して行く方針をとつた。従つて費用は一般住民からの寄附に依つて運用された。W.R.A.からのC.A.資金が支給されたが内四百五十棒を田三ブラツクヘピン、ボン、バレーボール、馬蹄等の配給に費された。

体育部は市内体育に關する總を統轄し左の陣容を以て當つた。

□ハンフ佐藤主任堀田タツク、城中テンド、水深田即打岡省吾、若田、石岡、堀部、大久保

用具製作係中村仁平

□女子部 土橋水子主任稻垣静枝、荻尾、ブレス、堀切、正枝、池添ミル、ドレツド

□柔道部 入江ヘンリー、香川W

柳忠川崎哲

□剣道部 滝口義信、服部松本、野沢有

□角力部 荳井長一、堀部、津藤、荒古、飯田、杉本、早瀬

□重量上げ 城白シグ、古屋サム

□拳闘部 高野シヨン、小谷エマソン

種々変遷があつたが大体的に記の陣容で固めた過去一年に於ける主なる運動總統計をあげると左の如くなる。

種類 競技数 選手数 観衆延人数

軟球部 九七 二〇四〇 四一、一五〇

全(文) 二三 四二四 五四三五

全(武) 八一 四二九一 二三八七五

全(武) 九八 三六九〇 二二一三三五

野球部 三三 七八〇 二二七八四

蹴球部 八二 二二五五 三八三二五

全(タツキ) 一〇四 二一〇九 五三九五

バレーボール 二七 六三六 一一〇一

ボクシング 一四五 二八三三 一一二七二

柔道 一四〇 八七五四 八七三九

角力 一三四 二九八四 二九七六一

重量場 九〇 一三〇六 二二六九

ピンポン 一五二七 二六三三 三七五四九

剣道 五 一二〇 二四〇

以上はC.A.体育部の記録である。

角力

一八四三年一月永井秀雄氏の贈入りて北加例小港南加例旭川を中心南北角力関係者の代表者が南加例小港旭川両側を師範に推薦同時に師範角力協会が生れた。そして角力はC A 体育部の一部門に加へられた。

正月二日正角力入会が東側高校運動場の土俵で催され盛会で小港松井を筆頭に南北力士八十余名中平中野横竹楠本飯田徳永鬼塚堀部梅敷林野聖谷等が主体であつた。

当時の協会幹部は
 会頭荒古 副会頭伊藤
 会計清野松本 幹事飯田
 監査岡田清野吉田
 世島杉本 行幸基下
 土俵係野村 相談役橋

坂、稲益、本龍、岸田、沖野、程谷、田村、松井、林、中平、南来、角力は益々盛んで土俵は第一区、第四十一区、第十区、第十区と出京力士と本龍兄弟、香川兄弟、政岡等が加はつて再三ジエロムとの対抗試合も行はれた。

小港出所の後堀部氏が師範に代りよく指導した鶴湖隔離があつて多数の力士を失ひ更に剣柔道と共に角力部もW R A の運動部門不承認に達つて現在は練習中止の状態となつてゐる。

柔道

当所における柔道々場は吾等立連者が入所早々川崎哲五段指導の下に入江酒井両三段が師範でP S 34に開設され盛んに青少年の間に訓

練された。

二月十四日キャンブルアントに入営中の好評三段柔所を機に歓迎柔道入会が催され三月三日にはマツギ高校に招聘されて奉歸重量揚撲手を加へる四十余名の一行がデモンストレーションを行つた。又四月二十三日には重量場及剣道撲手を加へた二十余名がY M C A に招かれてリルラツクへ出張少年団及Y M C A で模範試合を行ひ大に面目を施した六月十三日ジエロムに遠征し八月一日ジエロム柔道部員を招いて対抗試合を催した。

師範柔道はメンバー百数十名を擁し多士満々だつたが九月の鶴湖隔離で上田原田両初段始め多数撲手を失つた

現在は川崎五段を総師に入江三段師範押香川二段之を助け幼少年七十余名が熱心に稽古を積んでゐる

道場はP S 8を専用、有段者会二十五を含む道士百四十五名がある背後に強固な父兄会があつて指導と後援に努めてゐる

剣道

剣道は戦争勃發と同時にF B I に罷せられた為の立退にも道具等持つて遠入つたものが少なかつた為のセンターでと甚だ振はぬ体育の一つであつた。従つてスタートと遅れ四月頃漸く龍口義信氏がC A 運動部に入つて指導した野沢有松本幸一服部の諸氏が指導した。最初P S 8に道場を持ち後



社会娛樂部

最初C.A.の社会部と称へた。部内には成人部と青年部があり青年部はタイ斉藤氏成人部は村岡健次氏が主宰した。今年六月頃から此二つを合面したものを社会娛樂部と改称した。現在同部門は森邦雄氏を監督に成人部に宝崎久治氏、演藝部に面部長郎おき勇面氏、映画部に近江謙吾氏を主任とし更に成人部員に矢倉鳳水、高木潔、植松

百合子、山本マリアン、徳永栄蔵、藤井玉三郎諸氏を置いて指導に当らせ、運輸部に平松峰太郎氏を配し、之等の人々に依つて全センターの娛樂遊藝界は運動されてゐる。但し所内の催物は同部門が主催を握つて、配を振ると云ふ意味でなく一般の要求に於いて必要なる援助を爲し出資得る限りの便宜を以てゐると云ふ方針をとりてゐる。同部門と提携して持ちつたれたりの向にある団体は朗和演藝

会、宮崎園昇一座、朗和義太夫会、藤間勲須、若、植松百合子、長谷川夫人、各門下生、ピアノ及歌手クラブ、高木、國風門下生、琵琶会、浪曲会及山本海田面夫、人等があり、映画部はY.M.C.A.及W.R.A.の映画により、李扶病院及一般への野外映画を奉仕して来た。

成人部の生ひ立ち

最初社会社交部と云ふものを創立した一二古の趣味が一致しない円

滑に物が運ばないので日本通のハンター博士の發案で成人部を独立した。一九四二年十月十四日、プライス氏監督の下に、グリー永井、デック森氏等がその衝に當つた。當時は市民が移住早々の事で、急ぎの棚作りに大騒ぎの頃なので、野外演藝の計画と思ふ様に進まず、プライス氏をせがんで種々材料を集めたが、仲々ほかほかしく行かない。結局センタ―を五区に分ち、親睦吹寄会を持つ事とし、長

合の援助を得て此の計画を進め十月十六日に初めて第一区メスで吹寄の夕を持つ事が出来た当夜は森邦雄氏の司会で区内の人々の流行歌高木国刀氏の詩吟となつたこのだつたがブライス氏及音楽監督ミスパセリ(現ブライス天へて出席し朗らかな当夜の空気に満足らしかつた。第一夜の成功は遂に次ぎ／＼と毎夜の如く各区に催され後に来るべき野外大演藝会への出演者集めの下準備が出来たのである。十月上旬成人部は事務所を27/Aに移し部長永井秀夫副部長久家夫人杉本孝子小室昌一と古く陣立になつた。

南北演藝

初の顔合せ

北加側代表の小室昌一南加側宮崎園昇両氏を通し南北演藝人の顔合せの機会を作り十一月十六日第廿七区メスに於てC/A成人部主催で最初の会合を持つた。当夜の出席者は(南加側)宮崎園昇、吉田一、笑青地、永高、雨人、洪野、植松百合子、藤岡勲、須永井、ゲリ、森邦雄、何部次郎、北加側)深見平也、長谷川夫人及門下生一同、松井新七、東郷繁太郎、藤岡虎、池育、藤秀雄、鈴木良章、伊藤秀雄、杉本孝、小室昌一之に依り全センター演藝会を組織する計画であつたが其の后再三の会合に話が纏まらず遂に

南加側の承認を経て北加側の人々で今日の朗和演藝会を組織する事となつたのである。

第一回

野外演藝会

永井秀雄、森邦雄氏等成人部首脳部の懸命の努力が報ひられて十一月十五日には高校グラウンドに於て第一回の野外大演藝会が催された。当夜は森氏司会し、ジョンストン所長、ブライス(A監督)のスピーチもあり観衆数千の盛會であつた。ステージに材料がないのでフーライイトにトメト錐を用ひ因にはブランケットを下げると古く風で見物も周囲のブランケットをまくつて覗き込むと古く有様、当夜随つた勸須磨が踊を従う

から見られたのは始めてだと云つた笑へない滑稽押話であつた。

その日須市旭座の衣裳小道具宮崎園昇の衣裳等も取寄せられて一年後の今日は新旧劇に争かゝる整備が出来、ステージライイトも二百五十坪を投じた立派なものに備へられる様になり、今昔の観を察からしむるものがある。

今年春に至り各区演藝委員を選定し所民の娯樂慰安は之等の人々に依つて計重され成人部が此の運用に當る事に改革された。現在代表委員は如左(数字は区)

- 馬場(1) 竹山、宮本(2)
- 大下、山内(3) 下野(4)
- 赤野(5) 西本(6) 大石(7) 川崎(8) 内海(9) 榎藤(10) 宝崎(11)
- 高木(12) 藤本(13) 向

井(14) 吉田(15) 西浦(16) 比企(17) 太谷(18) 中村(20) 松本(23) 三崎(24) 杉本(25) 伊藤(26) 平井(27) 藤岡(28) 中島(29) 小早川(30) 大原(33) 服部(34) 天倉(38) 山田(39) 佐賀(40) 仁井(41)

一年間の

キヤレンダー

一九四二年十月十九日
第一区親睦吹奏会
廿四日 第廿七区
高木園方詩吟会
田一笑万才等
廿五日 第廿二区
廿六日 第三区
廿七日 第三区
リチャード土井出演
廿八日 第廿八区
廿日 第十八区
ドの夕

○廿一日 第廿区 流行歌の夕
十一月一日 第六区
○四日 第十四区 山本清香、島中、吉一
○全 第十一区
○九日 第十五区
○十三日 ジエロム白
人教師会の招待に依り藤岡勘須磨門下生出張出演
○十四日 第廿区 流行歌
○十五日 第一田野外大演藝会、藤岡勘須磨、リチャード土井、ハロルド野口等
十二月四日 第二十区 宮崎園昇一座歌舞伎
○六日 村岡氏成人部長となる
一九四三年
一月一二三日 正月大演藝会出演宮崎園昇一座、近江兄弟一座、勘須磨門下生、植松百合

子門下生、長谷川夫人門下生
○十日 宝崎氏成人部へ入る
○十三日 阿部次郎氏成人部へ入る
○廿八日 CA事務所 PS 32へ移る
○卅一日 第廿八区 時代劇園定忠治阿部次郎一座
二月一日 杉本勇氏成人部へ入る
○五日 近江謙吾氏同上
○十三日 第二十七区 阿部青藤一座の女天下上演
竹本千代駒成人部へ
○廿六日 第廿六区 朗和演藝会発表式上京土産上演
三月三日 第二十二区 宮崎園昇神崎東下り
○六日 第一区馬場利行の故郷の鐘
○十一日 第廿七区

浪花節大会 杉本勇、菊村、久米、声成子、吉田一笑、神谷
○十七日 第十四区 流行歌の夕
○廿日 第廿八区 朗和演藝会喜劇、清我漫
○廿日 第十二区 故郷の鐘、脅我漫
四月十六日より廿一日 追廻園演藝会、舞踊、植松百合子、藤岡勘須磨、磨各門下生、喜劇、吉田一笑、悲劇、人の親朗和演藝会
五月三日 詩吟大会
高木園方門下生
○十二日 CA映画部新設第廿七区野外
○十四日 二市夕レントレビユー
○廿八日 ジエロム出演、榎本明氏の朗和、オーケストラ、植松百合子門下生舞踊、馬場、酒井の万才等

- 三十日 成人部長村岡氏辞任出所
 六月一日 社会部組織変り監督に森邦雄
 成人部長室崎久治演
 藝部長杉本勇前部長
 郎〇各部教師藤間勘
 須磨植松百合子天倉
 鳳水高木国刀菊地盤
 徳永栄造竹本千代駒
 梅本明近江謙吾
 十一月一日 第廿五区
 調子の少女歌舞伎
 四月間39.43と巡業
 十五日 第一回野外
 映画高技グラウンド
 七月三日 音頭ノ夕
 四日 演藝会高枝々庭
 九日 第廿二区天倉
 山下生琵琶会
 廿三日 詩吟大会野
 廿四日 第十五区
 千代駒義太夫会
 八月三日 野外映画日
 本人の転住
 廿廿一日 第廿五区

場青年会主催送別演
 藝会
 廿七、廿八日 カニバ
 ル大演藝会
 八月八、九日 日恵父
 〇十二日 CA主催送
 別大演藝会
 廿五日 千代駒送別
 義太夫会
 十月六日 昭和演藝会
 シエロムに出演
 〇廿三日 転住一周年
 大演藝
 〇廿日 第廿七区
 昭和義太夫会一周年
 記念
 藝界の人々
 過去一ケ年の間即ち創
 業時代から今日まで娯
 樂部と相協力して市民
 慰安の爲盡力して来た
 所謂貢献者の重なる人
 々を綴括すると
 演藝方面に於ける深見

平也、宮崎國昇、吉田
 一矢、義太夫会に青地
 育枝及竹本千代駒、舞
 踊に藤岡勘須磨、植松
 百合子、清元及三味線
 に長谷川天人、詩吟に
 高木国刀、琵琶に矢倉
 鳳水、西洋音楽に梅本
 明、琴に坂本夫人と其
 の門下及一空の人々の
 外万文に馬場声樂にリ
 チャード上井、角田ブ
 レース、流行歌手にジ
 ヨー畑中、若林博、形
 本口レーン、山本清香
 浪花節に東家燕枝やし
 てどんな演藝会にも無
 くてはならぬ山本海田
 面夫人の三味線を挙げ
 る事が出来る
 此の他床山衣装及化粧
 に藤井正三郎室崎夫人
 草間天人、植松夫人及町
 部次郎の諸氏があり中
 村仁平奇藤秀雄の玄人
 訪の諸氏の密に働く貢

献て見のかす事が出来
 ない
 演藝その他の各団体の
 メンバーを列記出来な
 いのを遺憾とし次の機
 会を以て此の方面の評
 価を估へる事を約束し
 たいと思ふ
 剣道
 (四七頁より續く)
 PSへ移った。
 昭和青年の体育運動大
 会には野沢龍口西師範
 の型を見せ前記マギ
 高技リルラツクYMC
 Aに於て同じく西師範
 に依り対米人的デモン
 ストレーションが試み
 られた他余り贅々しい
 活躍も見ない
 龍口氏鶴翔へ去つて後
 は野沢氏一人孤城を守
 つてゐる。



隨筆

V ガーデン

T・S・K

吾々立退者が朗和軒住所へ移された時 WRA から手へられたものは一人に一台の鉄製又はいカツトベッドと数枚の毛布と布團だけだった。室のサイズに依つて三人、四人乃至五六人の家族が一室に住すはねばならない。其の室に各々一個のストープが据え付けられてゐる。之が總てである。一個のテーブルと一脚の椅子と手へられなかつた。入所后半年程経つて各ユニットにチヤンバーと洗面器一個宛が配給された。簾は最初二軒で共同のものが一本手へられた。それが現在では

とう皆坊主になつてゐる。こうした中に潔癖な日本人が幾日と幾月と幾年も生活出来やう移つた当壁の吾々は鳥が糞を作るやうに捨てられた材木を、落ちてゐる釘を拾ひ集め、荷物の箱をばくして棚を作リ、テーブルを作り、そして无づ椅子を作つた。それは棺も狂人の如くに！

聖者の如き不器用者は一年過ぎた今日尚ほ碌な椅子もないが多くの同胞家庭は適宜に室のパチーシヨンを作り、家具を揃へ一部壁の住下から立派に整理された中に住んで居る。本船に加工して置物とし花器を作り、野草や林に木の枝を漬つて四時盞花主花の絶えない生活にまで至つて居る。こんな草をどこの国の人か真似が出来るだらう？ 薪の向類が片づいて暖かい春になつた。吾等は軒下に、裏の空地に競ふでVガーデンを作つた。区に数本しか手へられなかつたシヤブルを以て堅いセメントの様な土をおこした。そしてに草花を植へ野菜を作つた。一区二百呎しか手へられなかつた水ホースを以てする夏の水引きに七十余軒の住民は如何に苦心した事であらう。そして夏の朗和センターは草花と野菜を以て眼と饒な美しいを呈した。

秋にはコーンが実つた。西瓜がなり、甘藷がとれた。然し野牛が入つてコーンをむしつた西瓜をふみつぶした。その後には秋大狼や白菜が蒔かれた。霜害の来る前に全部害中が平らげてしまつた。住民の多くは来年は何と作らんぞと立つてゐる。——が春が来て草が萌えて来るやうになる。と又何か空地一ぱい植へるだらう。日本人はこうした人間である。

地に白き山く
るみの実の一
つを手にする

鏡



短歌

過ぎしひととせ

山本明古

降りにつゝ軒にも木にもひえぐとつらゝの下るを待つにして見る
大雨のふりつゝ氷る寒さなりさむさわすれなくしきさま見る
夜をこめて寝たはしる音きゝつしづむりをば何か死のしき

夜とすぢらみざれ降りしか深々と雪のつてりて今朝は真白し
繪にてみしクリスマスのさま今日はいそそのまゝに見る遠くは春つる

春や来しかこひの外より手折り来し桃はひらきぬうすくはなひに
春や来し雨の止みまにチチチとささる鳥のこゑのきこゆる

咳やまずふしどにあればひたぶるにすぎにしくらしの思ひ出さるゝ
雨をこのむわれにはあれどこの土地のはげしき雨にこゝろつづるゝ

夕日浴び列なし室に入りけるを忍ち窓打つ大雨の音
横ぶりに降りしきるなかを列なして食まつ憂さも今は馴れにき

空ひくゝむらがり飛べる水鳥を久々に見る雨のやみ間に
夕立の風やなちけんまど近くきびの葉すねのいとこはげしき

太陽の直射はげしきとゝにして焦げし顔はと南洋人のごと
走ひしらす詞らかなはしわれなれどこゝの暮しにわれを走ひぬる

ふる里の畑に作りし豆茶をばこの山かげの野生に見んとは
パラリパリ床に落つる音のして豆茶のたねのはじけ初めぬ

大陸の東の果てに逃げはれきてふるさとに似し我にはあひぬる
ひとゝせをこの山かげにすみ馴れてこの秋われのしづ心かと

とたりぬてふと悲しむ同胞のこの生活のいつまでつゞくや
忠とぬひ不忠とぬへど同胞の身うち流るゝ血汐は如何に

べりゝの葉の紅きつづらめつやぐしまけて幾日や冬ふかみゆく
アトカンソーの樹して作れる花つばにけたる櫻の芽えしてみち葉

一二六、四三

二二五、四三

五三〇、四三

六一五、四三

十二二、四三

俳句

デルタ吟社 転住

一周年記念句会句抄

一九四四年十一月十二日

於新宮泥砂居



○ からく 残り葉初雪は晴れ

上利 与天地

○ 星夜鳴き渡る雁あり千大根の白し

徳永 田芥子

○ 冬帽針にかけたるを手にほこりを拂ひ

高岡 沈瓶子

○ コーヒーする夜となり座布団やほらかく

国森 李城子

○ 牧場に仔牛が生れ吾が行く霧の途

岡本 素峰

○ 杜に杜のにちくがあり冬空晴れたり

中尾 野人

○ 秋風立つ森の石櫛の根ははれり

恒川 半月

○ 新宮 泥砂

○ 麦畑に麦伸び霜菊を鳴く鳥

福田 久雄

○ 降る雪の細かく動かぬ樹松の葉は細し

藤田 藤女

○ 穂ごときを生け櫛の一とところへ帯へ

平井 十九二

○ 月社の木末に残り指先冷ゆる朝

山田 藤舎

○ 小鳥群はたち空に何とない清陽

大山 芦舟

○ かくてまたカンナ花と茶と同色に枯れ

鈴木 玲

○ 季重ら石をけり石をけりて行く冬の日

山根 草風

○ 渡り鳥南を指す収容所で酔国人で

佐藤 知星

○ 月夜友に逢へばいとしく酒の話する

田村 七湖

○ 冬の日暮れんとす芽友の畑に出ず

岡本 百一吉

○ 我等忍辱の冬夜幾列の雁鳴いてとぶ

森本 弥山

○ 冬の夜街の水槽の赤い日

小室 鏡太郎

○ けふ一年の新を抱へ入れがをたき

○雜 詠

一周年記念句会に出席出来なかつた
 同人の旧作中より一句宛を抜く従つ
 て季節の如き推多である

○ ひとどころ水あてゝゐて暖あての子供

岡本 菊葉

○ 偶々確の声きこゆ夜の空くじり

松井 緑菫

○ 唇辛子色づくこめをたてゝ歩く男

角田まさ子

○ 朝霧の中を来る田舎子笑つて来る

井口 嶺南

○ 捨水凍てる地をふんで行く朝なり

島田眞砂夫

○ 溝に枯木をうつし長々とある一筋

五島 青葉

○ 半吉乳をたれ青草を食ふ少女

大内田 江南

○ 黒人綿を摘む丈低い樹の本

鈴木 湘南

○ 走り雲雨にほす食堂道にある鮎

植川 花か子

○ 庭むく夢の寒こぼるゝ世景の青う上に

秋本 異子

○ 軒の葉つらゝとなりて梅どぎの技に

○ 秋朝ブラシコ動いてゐて誰にもない
 小室 初穂

○ 裸石にかけあり贈かける
 久木声成子

○ どこに夫にはなれ一年はるか心ばかり
 谷口 貞子

○ 朝立ちのしのぶきに折れる冬の窓
 吉山北機堂

○ お隣に新積んで雨のバラツクの日曜日
 村岡 好栄

○ 縄が天井にあるこんな生活のたつた一つの室
 紙井古流星

○ 別れせまる松葉牡丹咲け咲け暑い日
 元明 玲子

○ 雨やみたる明るさありて不眠は宵し
 園香 達朗

○ 落葉かきの煙草にしてゐる落葉散つてゐる
 藤川 悠子

○ 泣いて戻つた児の掌の草の寒
 外川 明

○ 寄主木折らんとす穴のある手袋
 柳田 九平

○ 静かな庭にそり千日紅まんまるい花
 落合千代子

○ ある日ひとリ夕空のとうからし一つ懸ねてゐる
 小宮三郎

俳句精進の一年

小室 鏡太郎

やれば一八四二年十一月の初めだつた。我輩と古ふに相当暖かい日の午だつた。スタクトンから吾々の荷物に到着してメスわきの店場にゴタ／＼に投り下ろされた中から同じ列車で来た人々がお互に自分の荷物と汗をにじませ乍らよりわけをみる時だつた。一人の知らない男が僕を訪ねて呉れた。それはアゴスト社の徳永田子であつた。お互に俳句の上で知り合であつたが逢ふのは初めてであつた。其の時落付かない忙しい時であつたので一寸立話の上別れたが我等立退者と少しく落付

いて十一月廿六日の夜世田区メスで調和に於ける第一曲のデルタ吟社句会を持つた。田子には未高兩人村岡好栄など携へて参産した。之が調和に於ける新俳句最初の集りて与天地本城子、後城子、相角、菊葉、野人、半月、たか子、冥子と云ふ類ぶれ逢調跡山久雄等が句を送つてゐた。爾来過去一年の間に五十面余の句会を持つた殆んど毎週一面鉄さぬ程度で之はほどの精進振りけ吾等の過去四年の俳句生活に於てはスタクトン集会所に於ける五ヶ月間の句の記録以外には持たない経験である。

此所で新らたに同人に加はつて同じ道に進みつゝある人々に平井十九、鈴不玲、田村七瀬、岡本百一、古雨田まき島、田真砂夫、五島青葉の諸氏がある。



波

光

生

日本人街

日本人街——我等の古巣日本人街は羅行にしる、須市にしる、桑港にしる、近代的腐臭は別にして我等の夢の跡、郷土の臭ひと味とを持つてゐる事に於て正に我等の樂土であつた。先づ煙草の煙で濛々たるコーナーに近づくと、同胞のニヤ／＼した顔が目につく。

そこにはカフエとレストランに祝酒をあける手合がある。不完全な英語でまくし立てる一舌、お古辞になければ空寂のない二舌などが一所になつて歩いてゐる。此夕は一日の終つた人、こ一日の初まる人があるのだ、親の死に目に逢へない連中と、独身者の氣鬱な吾界を夢見てる連中が居るのかと思へば中には国籍の無いコスモポリタンの居る。そこには世界のどつかに置れてゐる物語の種もありやうた。電燈の海、不夜城の大通りにちちヨイ／＼小さな豪通が眠つて居る所、そこには醤油の香と味噌の香がブーンと来る日本人街に、最早此の古から姿を消してしまつた。淋しい……

朗和橘吟社句抄

末高 而人

冬紅葉隠ふでバラツク森に入る
 日当りの干菜に宿る蝶の玉
 レバクルー梵火隔たり薪試り
 唄女が羅紗雪荷着て衆屋入り
 寒林の橋へ軒燈つゞきけり
 空青く樹氷の指差りけり
 疎雨西降りつゝ道の凍り居り
 乾脱ぐや乾きこぼるゝ春の泥
 石ばかりの見張櫓や冬木立
 メス表に薪を覆ひ冬系すす

本田 了水

寒の月千丈の崖に懸りけり
 氷柱の太るかまゝや社の宿
 春待つや山水明帽子に詠り
 病友の窓に衝へけり水仙花
 東成咲けば芽ぶるやむなり猶種
 史ねる日向ばくりや車浦ゆる

鈴木 和子

閑談の矢り路遠き霜夜かな
 落葉焚く煙にかくるキャンブかな

渡辺 文子

初雪に明るくなりしキャンブかな

秋入根成のふりして鯛を煮ふ

佐藤しづ江女
保田白帆子

垣向見るローワの町や芽芽ぐむ

先師猶古芳れの春の爪印

早春や斧をかたけて山歩き

一ふ来てさよふ森に童の芽

養鰻場の見に来る人や日脚伸ぶ

リロケーションセンターに病み親鸞忌

唐桑の枯葉を牛のうきり喰む

枯桑の果に隣の屋根沈む

紅雀とんで暮ぬく森の中

早春の樹海に揚る煙かな



川柳詠吟社



追想は萬感胸に時を待ち
 晴れて燦々明日の天気を母系じ
 柵越えて来たか今宵と驚飛び
 センターの生活また見るオーダ帖
 一匙の砂糖へ朝の尚寒し
 齒を出して笑つて今朝の猪を知り
 譯記ひて見れば家外苦勞性
 センターの生活と故郷の母に思へ
 統制へ砂糖真先に名乗上げ
 胸中はハツキリなへの婦米の子
 統制へ今一匙を思ひ知り
 胸高な帯が可愛舞容
 貴言葉買はずに帰る胸の中
 決心と孫の寝顔に迷はされ
 国策に添ふて砂糖と節おし
 好物を母の慈愛も置いた皿
 コーヒーの甘さ砂糖の有難味
 定の難い明日の登録苦悶顔
 甘党も止むを得ないと使ひ慣れ
 梅ひとなく明日へ眠る薄雲園
 コーヒーへ挽香する様に砂糖入れ

田中 豊
 木村桂花
 小沢小城
 又山節子
 篠原持骨
 石田美子
 青山樺月
 堀口成美
 岩見屋武生
 野上白水
 梶田三純

お母さん全甲ですと胸を振り
 龍馬の雲を望んで自由待ち
 慰寂に胸がふさがる人情味
 陽は落ちて心は急ぐ迷道
 停電に聲は一つ怒に飛び
 逆立てる北斗カーテン越しに見え
 母の齒の兎事に居ます今日の辛
 一切を平等で行く収容所
 年甲斐で漸く酔る体験味
 頭だに漏れず洋傘愛でられる
 追憶をまた呼び起す今朝の夢
 一匙を佛壇へ母の御節日
 初孫へ心ばかりの誰かづる
 童稚幼心を呼び起し
 夢遊へ心夢を化し柵の中
 無我無中英語を知らで五十過ぎ
 空翔ける白馬見守り夢を運ぶ
 美しいア雪に描く故郷の母
 父母の孝ぶ英語へお茶が入り
 ABC声高らかに五十才
 明日雨く替無情の爪に散り

白沢香雪
 能美三笑
 糸巻麻子
 森川六坊
 熊本安勢
 吐月 峯
 中本しづ女
 宮尾善代子
 横井静山
 石田在望

愛し子の廻らぬ舌で英語歌
 迷霧を笑ふて受ける無二の友
 大空に腰の坐らぬ雲の連
 四十年蹉で英語にの古はせ
 お土産に貰った堂夜が待たれ
 崎仕度迷ふ晴衣の品定め
 雪の百夢と消化す二年生
 胸元を叩へて美人風情あり
 行還し螢の光歌ふまで
 我が頼明日ノと近はされる
 初物へ言葉をかける隣人
 風説に迷はぬまでの吐き出果
 転容所請飯で祝ふ誕生曰
 雨降雲を眺めて呼んでゐる
 片割れの雲の中より月覗く
 過去は夢センター生活一ヶ月
 島嶼を眺めて配所春を待ち
 克己に淋しく噓ふ己が過ち
 珍客にケイヤの味へ主婦の顔
 恙なく今日と感謝の血を持ち
 黙々と希望を胸に本音語り
 寒目に標立て直す配給着
 追ふ夢は平和であつた町の幸
 泣きの風説制だけ吹いてくる
 平等な血を春風を日か讀み
 嘘ふには堪へぬ正直子に見出し

松隈南窓
 黄表昨今明
 山田妙祥
 大西甘茶
 田中夏草
 平井陽歩
 真田双子
 渡辺泉花
 中李静風
 古山北嶽堂
 阿崎真澄
 沢口笛水
 勝木水郷

朗和の川柳

嘘ふまい身柄に合はぬ配給着
 先生も生徒も並いた許戦の日
 初成りに母は憐憫へ灯を燈し
 靴業の迷ひへ事の意志を見る
 同郷と知りて遠慮のない訛
 若かつた白のある腕の皺を撫で

竹原白雀
 鹿崎一街
 国次史朗

一八四二年の秋立退者
 がサンゴアニタ及スタ
 フトンから移つて少し
 滑りつくど向くなく固
 次史朗氏指導の下に朗
 和川柳吟社が生れた。
 以来毎月二回の会合が
 持ち續けられ一ヶ年の
 間に二十数回の例合の
 外臨時句会と度々行は
 れて於らく平時に於て
 之れ程の精進は望まれ
 ないであらふ努力が續
 けられてゐる。

且つよき試みとして七
 月には大陸聯合川柳互
 選会なるものを起した。
 なく九ヶ輪佳所及び外
 部に在る同好者に呼び
 かけ毎月一回互選発表
 をなし斯界隆盛に盡す
 所が多い。

○
 之等の奮闘な仕事は皆
 な国次史朗氏の手に依
 つてなされてゐるが之
 の努力は酬ひられて朗
 和川柳吟社と大陸聯合
 互選会と月を追ふて盛
 んになつて行く。



回顧一年

『轉住以來の日記』



時は激浪の如く流れ去る吾等が朗和転住所に轉住以來今日迄既に一年を過ぎた。

此の間に当転住所内は起つた重なる出来事と其時日等を日記の様式で極めて簡単に此處に記す但し其の材料は一八四二年十一月廿二日に創刊の所内英字紙「アウト」がスト及び同十二月十九日創刊の和字紙「朗和時報」から蒐集し夫れ以前の出来事は前当局の記録に依る。

○一八四二年

九月

○十八日 当転住所に最初の転住者を來せ

た汽車が到着した之れで来たのはスタクトンアセンブリーセンターからアドバンスクールとして乗り込んで来た一團で其数二百四十九名癸廿七日のバラックに入つて住居を足の道に当局の指令に依り其所請の乗り込んで來

転住者を迎ふる事及語般的施設に就いて準備を進めた當時は住宅も大半漸く竣工したのみで網でが来た調はず大混亂の裡に之等の人々が大車輪の活動をしたのであつた

○二十三日 サンタアニタアセンブリーセンターから五百二名が到着した之がサンタアニタからの先發隊であつた

○二十六日 サンタアニタからの第二回転住者五百口二名到着
○二十七日 同上転住者四百九十六名到着
○三十日 同上転住者四百九十四名到着

十月

○一日 同上四百五十
三名到着
○六日 同上四百八十

名到着

- 七日 同上四百十七名及び別の列車で須市からの第二四五百十二名到着
- 九日 須市からの五百十五名到着
- 十日 サンタアニタから三百八十九名着
- 十二日 須市から四百廿六名到着
- 十三日 須市から四百廿三名到着
- 十四日 須市から四百十七名到着
- 十七日 須市から四百廿二名到着
- 十九日 須市から四百十四名到着
- 廿一日 須市から四百廿五名到着
- 廿一日 サンタアニタから百七十三名着
- 十一月
- 十一日 須市センタ
- ーから義にアイダホ

砂精大根園に季節労働に出所したる四十名の一団が季節を終へて到着入所した以上を以て立退者の入所終る

八月

- 十八日 ジョンスト
- ン所長、ハンター杜
- 合部長、トライス教
- 育部長赴任

九月

- 十九日 板病院を第
- 廿七区内に設置
- 廿四日 キヤンテン
- 開く、
- リクリエーション部設置

十月

- 十四日 CA成人部
- 成る、
- 廿日 市内最初の女子クラブ、フドウエント
- イス組織さる
- 廿四日 ローワアウ
- トボスト幾刊
- YMCA創立

図書館第十八区PSに南館

- 廿五日 佛教礼拝堂
- 廿八PSに催さる
- 廿九日 市内四二ヶ
- 区々長選挙行はる
- 廿日 法律顧問カー
- チス氏赴任

十一月

- 一日 CA体育部設置さる
- 朗和病院南院
- 六日 就傷希望登録
- 四千八百名登録
- 共同教養ミシン使用
- 公南PS27
- 八日 第一回野外演
- 藝会催さる
- 九日 公立各校開設
- 決定登録行はる
- 十一日 仮市参事員
- 選挙
- 四日 仮市参事会成
- 立議長に民部氏

- 十二月
- 二日 朗和基督教会

設立

- 十七日 正月用の如州糯米六千六百斤
- 今週中に到着の旨発表
- 十八日 共同企業組合創立第一回委員会開催
- 十八日 朗和時報第一号発刊
- 廿日 朗和基督教会創立さる
- 廿四日 最初のクリスマス祝賀会催さる
- 廿五日 教会及各区メスで外部よりの贈物分配さる其の四千有餘個に達す

一九四三年

一月

- 一日 十才以下の子供に本年玉が贈らる
- 四十五日 組合代表者会で一揆一帯と決定

- 六日 成人教育部に
日本講座開く
○十五日 組合第一回
会計報告あり九月日
日より十二月廿一日
迄の純益金九八三六
円二五仙を發表
○十八日 酷暑零下度
○十九日 今田清三氏
代不純傷中員傷死亡
○廿日 被服費現金支
給開始する
WRA情報部長ト
デヤ一氏来所社訪問
○廿二日 スペイン大
使代理ラガデア領事
来訪
○廿四日 日本第一回
交換船で帰米のギヤ
ラット技師来所講演
○廿五日 不審取許可
かるた会生る
○一月 食堂コンテス
ト開始する
- 二日 朗和青年会成立
○十日 再転任登録及
軍部の日系転調部隊
志願に因する買内登
録行はる
○十七日 農園計里迄
渋谷区より二名宛の
経験者を選び廿八日
メスで相談会を催た
○十八日 マギーへの
買物を許可、不審取
りを中止する
○廿八日 第一回奉關
大会行はる
- 三日 三
○一日 去十八日開始
のWRA及軍部の登
録不成績の爲め今日
より強制登録無向六
向開始する
○十八日 親師協会設
立に決す
○廿日 朗和高校第一
回卒業式挙行卒業生
五十三名
朗和宗教家聯盟成る
- 廿二日 組合靴販賣
部B区PSに開設
○廿四日 同靴修繕所
42PSに開設
○廿七日 米國赤十字
朗和支部会員募集を
終る日系人側二千百
十七人白人側百七十
二人總金額三千百七
十円七十六仙に達す
- 四日 成人教育部款
總科卒業式挙行卒業
生百四十四名
○四日 同部彫刻科作
品展覧開始する向台向
三四両日權尊降誕会
花祭及祝賀演藝会
○八日 組合美容院42
区に開業
○十一日 春季相撲大
会開催組合
○十二日 組合呉服部
PSBに開業大賣出
○十五日 区長会及仮
参事会聯合協議会開
- 催医師待遇改善審議
○廿日 小林ドクター
召集命下る
○廿二日 朗和青年会
○廿五日 農、業、外
部労働及不純就傷
者團結成る
○廿六日 トイランド
12PSに開設
○廿九日 転任課主催
で外の様子を聴く会
を毎月毎週本所開催
○入所以来半ヶ年間の
出生 其他發表
※出生八二(男三七
女四五)※結婚四四組
※死亡二九(男二一
女八)
- 五月
○一日 百名の少女園
シエルビー兵營訪問
一泊の上帰所
○五日 四十一区土俵
開き角力大会
ラムゼー新病院長ヒ
ラより来任

- 六日 全米音楽連の
催しA李校及団体聯
合主催の大音楽会35
区で開催
WR A行政訓令三十
四條改訂に依り一市
の選挙に依る市政参
事会許可を發表
○十六日 朗青主催春
季体育大会催さる
○十七日 組合の写真
館三十五区に開設
○廿日 市政憲法詔否
一般投票が行はれた
結果承認愈々市政憲
法有効となる
○廿日 招魂祭に佛基
西教会基参会
○六日 朗和市政憲法
設定後の正式参事員
選挙行はる
○七日 ながいに関する
治療病院から發表
さる
○八日 第一回参事会
議開催さる。議長王
戒重監 副三ヶ谷愛
正 幹事安田秋衛
○十二日 裁縫科卒業
式P S 3。有妻婦長
クイン嬢担任
○十五日 市内に於て
短波レデオ使用禁止
○十八日 自由美以教
育バネツト氏夫妻慰
問の爲め来所
○十九日 朗和女子青
年会聯合式メス8
○廿三日 猛雨あり
キヤンテン前の花樹
に落雷
○廿五日 市政参事会
事務所紀5Fに開催
○廿七日 庚子区上表
南き大相模あり現役
外予備競技監会
○廿日 朗和共同企業
組合当州営業推認可
当所小學校クラスA
に認めらる
○一日 市内死傷者を
三千八百人に限定の
旨WR Aより伝達来
○三日 五日 独立祭
軟硬球軟典味ある試
合各校夜は演藝会あ
り。開幕俱樂部はジ
エロムへ遠征した
○六日 駐米スペイン
大使代理がレイ氏任
住民現状視察の爲来
所所民の希望を聴取
又帝國議會の交戦國
在任同胞慰問の決議
文を伝達さる。在所
者より之に答ふる謝
電の傳達方を依頼。
農園ポテト收穫を南
始り
○十日 角カジエロム
へ遠征
○十二日 司法省令に
て短波レデオ禁止
○十三日 サベヂ兵營
陸軍語科兵募集の
爲めグールド少佐は
篠田軍曹同伴来所
○十七日 ハチエツト
署長海軍に入り加州
讃港へ赴任川崎昇出
所につき署長にクレ
イトンキヤブテンに
川崎吾補任さる
○十八日 ジエロムの
区長組合及農園部首
脳部四十余名来訪サ
メスで歓迎会
○廿日 不忠誠者隔離
に關するWR Aの方
針發表さる
○廿三日 消防署長ミ
ラー氏引退ジヨンス
氏就任
○廿一日 ジエロム系
道部来襲対抗戦舉行
○四日 狂犬病予防注
射を行ふ
○六日 赤十字經由日本
手紙着く
○七日 編物展P S 10
○十日 大のライセン

- 又必要となる。煽風機粉矢問題表面化する。
- 十一日、リソコ設立相談会 P 832
- 十四日、お盆会と盆踊鑑賞会。日蓮宗盆会 P 87
- 十八日、七月度火災損害三市と発表
- 廿日、呉服部で洋服の注文取り開始
- 廿一日、朗和青年会館別入演藝会
- 廿三日、当日より約一週間少年園ミシ、ツピ河畔へ野営
- 廿五日、第二面日米交換船の出帆九月一日決定の旨発表する
- 廿七日、カーニバル高校グラウンドカンシリ共進会 P 834 彫刻展 P 84 酷暑百
- 五度正遷す
- 廿八日、農園トメト産前を開始
- 廿九日、交換船乗込者六十三名出發ロビンソン兵營野球軍果
- 九月
- 一日、市内労働新規定及出所者補助新規定等発表する
- 四日、戦後部予業式朗音橋別入宴会
- 五日、佛教会日校生の鶴湖隔離生送別会
- 六日、第二交換船便乗不能の爲め返つれた五十五名の人看
- 七日、より三日間平原夫人主催送別盆花展 P 834
- 八日、より十四日、日本重父巡視
- 九日、デルト吟社鶴湖送別会 P 34 メス
- 十日、コアプ定期網会開催
- 十一日、送別角力大会 P 34 上原。吉別基参会。製福科開始
- 十二日、CA主催送別入演藝会
- 十四日、第一回鶴湖隔離者四百四十出發
- 廿三日、今冬燃料の新伐開始
- 廿五日、千代駒送別義太夫
- 廿八日、鶴湖よりの移住者五十余名到着
- 十月
- 二日、CA通管ソーレンソン壕示十字外人課に米転出發
- 七日、鶴湖隔離者二列車出發四百〇二名
- 八日、カンサス、オマハ、聖路易、インデヤナポリス転住所代表者来所八九面日所民と意見研究
- 九日、成人部英語科卒業證書授与式引区
- 十三日、成人教育部自動車修繕科開設。CA運動部から柔剣
- 十二日、CA主催送別入演藝会
- 十四日、第一回鶴湖隔離者四百四十出發
- 廿三日、今冬燃料の新伐開始
- 廿五日、千代駒送別義太夫
- 廿八日、鶴湖よりの移住者五十余名到着
- 二日、CA通管ソーレンソン壕示十字外人課に米転出發
- 七日、鶴湖隔離者二列車出發四百〇二名
- 八日、カンサス、オマハ、聖路易、インデヤナポリス転住所代表者来所八九面日所民と意見研究
- 九日、成人部英語科卒業證書授与式引区
- 十三日、成人教育部自動車修繕科開設。CA運動部から柔剣
- 十九日、市参事会の医師優遇具体案決定
- 廿日、農園レスス日語及大根収穫を開始
- 廿三日、より三日間転住一周年記念大演藝会於高校運動場
- 廿四日、書道会の書道展同上 P 834。高校生二百余燃料代不援助
- 廿五日、区長定期改選の結果発表
- 廿九日、より三日間吉野溪山門下書道展並に紙人形展メス
- 廿日、佛教黎明会組織する
- 以上
- 及角力部除かる。高技シニア生に着護婦更習コース新設

編輯を終へて

本稿は本紙最後の一頁である。此一文を綴る時の吾人の心遣は多少の昂奮を覚ゆるもの、先づやれしと云ふ筈で一抔である。

古に重荷を下ろしたと云ふ言葉があるが正にそれである。それはどエライ仕事であつたと思ふと共に所謂がツカリした疲労を感ずるのである。然しその疲労は一つの仕事を成し遂げたとなふ快意の伴ふ疲労である。

本誌最初の計画は僅かに英文記念号への概略を翻譯するにあつたものであつた。然し愈々取りかゝつて見ると自

然編輯者としての慾望が燃えて来る。それは一つの記録となふスケルトンに皮を着せ、肉を添へる事であつた。そして之に血を通はせる事であつた。

それに材料の蒐集、頁数の増加其他種々の困難が伴ふのは當然である。加ふるに吾等の編輯室にも流弊の侵害があり燃料向題の影響もあつた。之は詳しく説明する必要を認めないが兎に角新聞の定期刊行に手一ぱいの手へられたる人々を以て大部の雅誌を完成して行くこととなふ事は難事中の難事であつた。之は十二月十八日朝和時報第一号發刊の日

發行すべき約束が遲延に遲延を重ねて今日に至つた申訳と見られてゐようしいのである。

本誌編纂に當つては一言諸君への興味に盡きを置いた爲めに部門項目に依つて取扱いに軽重がある。

又充分注意はしたか出来上つたものを見ると相当社撰な英を發見する。殊に必要な事項や人々に脱漏があつたり姓名に当字があつたりする。此の英は讀者諸君の特別な寛容を煩はしたい。

本誌編輯に際しては多忙な中から特に稿を寄せられた方々、好意と材料を提供して下さいた方々、所当局殊に情報部のスミス監督の好意

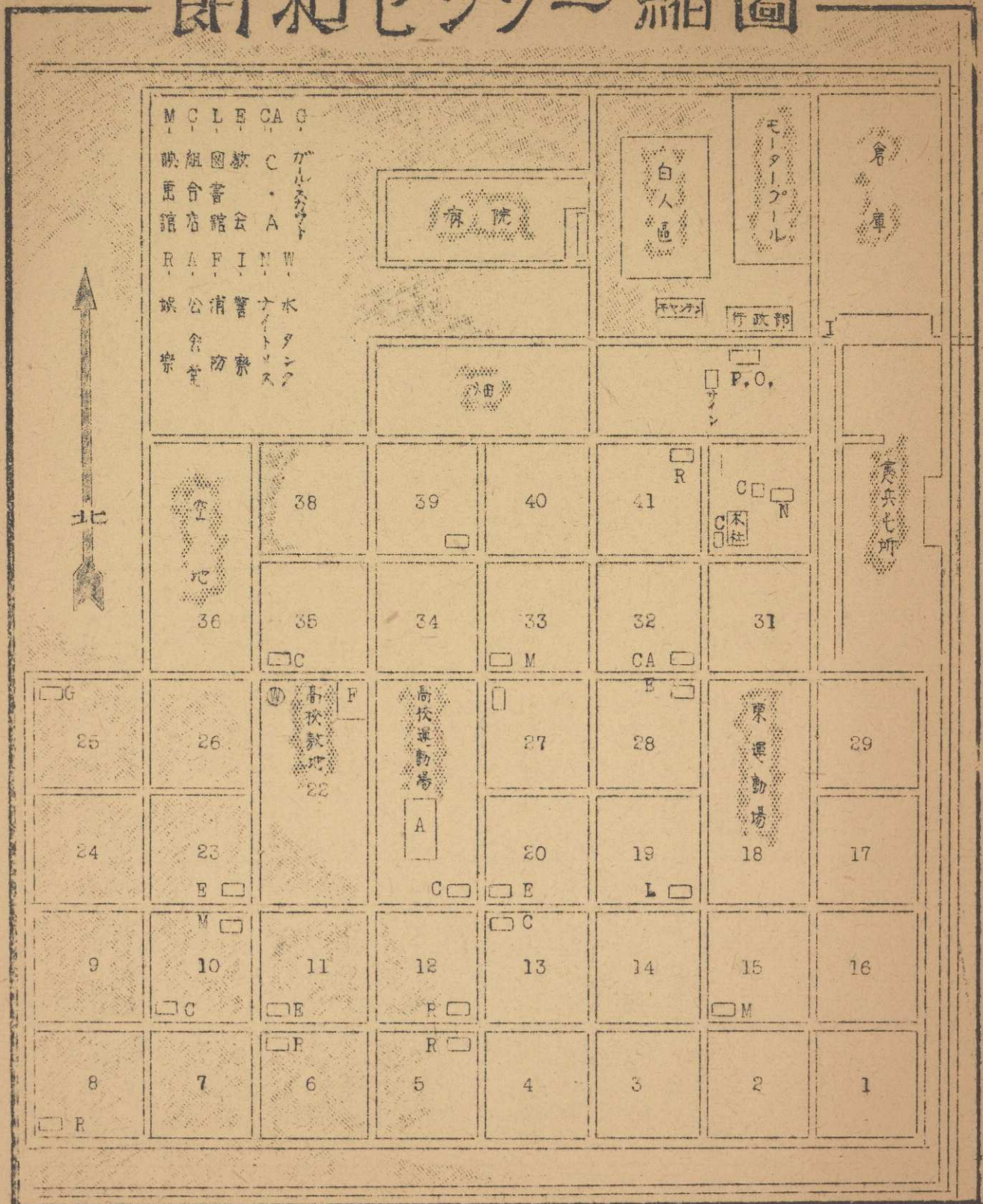
と援助、本社日英兩編輯局並に印刷部の全員の協力等深く感謝したい。

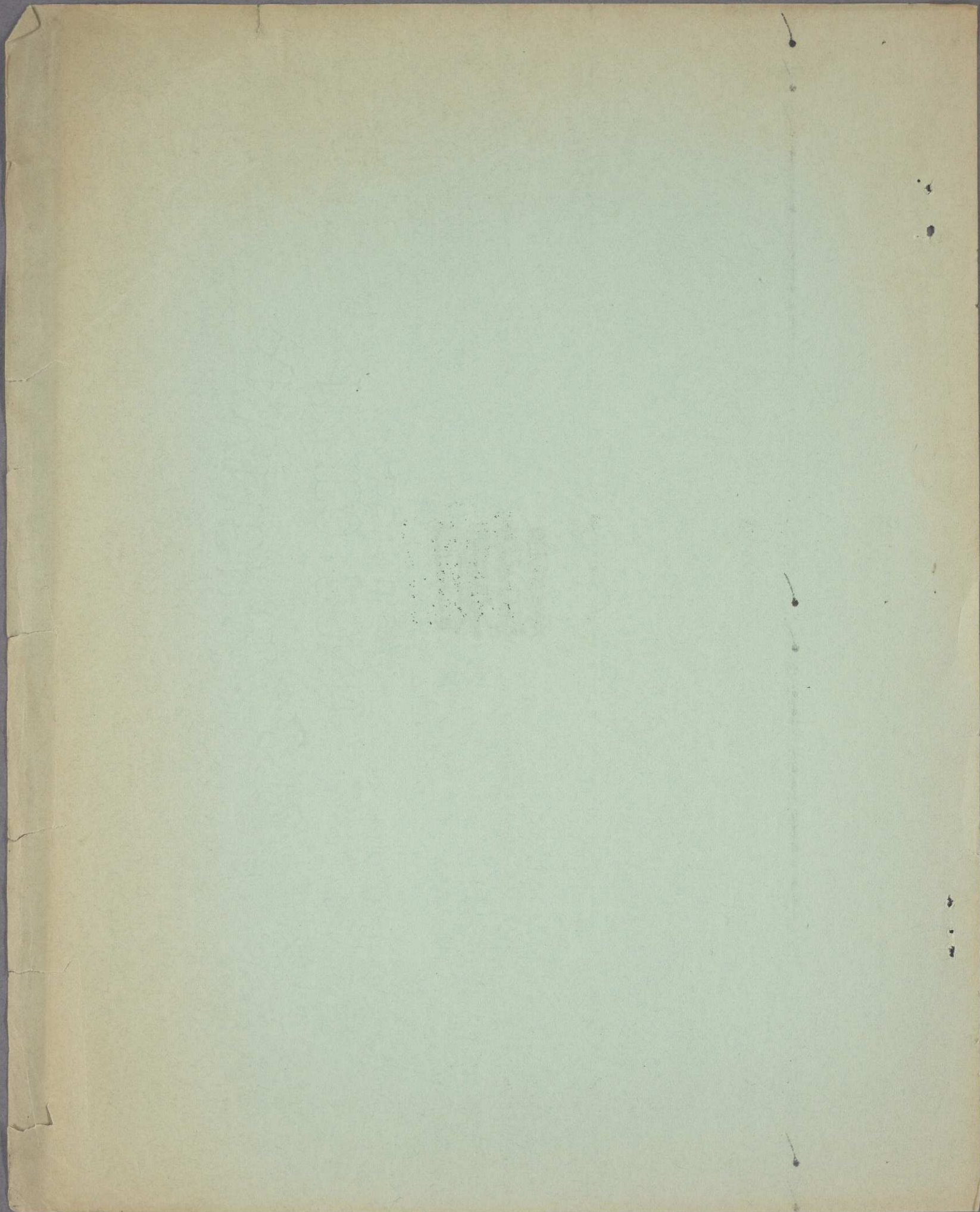
本稿は体裁の上から全篇を通じて同上の文字体を用ゆる爲め鉄筆は鈴木玲君一人の手に委ねた。同君が晝夜努力の精力とその勞力に對し感謝したい。

最後に此の記念誌開始の一年が当所在住者諸君の爲め一つの記念物として残り、後分て吾等の社会の爲めに裨益する處があれば吾人の依び之に過ぎない。

朝和時報編輯局

朗和センター縮圖





朗和
時報